

島根県子育て・結婚支援に関する意識調査  
調査結果

平成31年3月

島 根 県

# 目次

1. 調査の概要	
(1) 趣旨.....	1
(2) 概要.....	1
①調査対象 .....	1
②調査方法 .....	1
③回収結果 .....	1
④調査の設問項目の設定 .....	1
2. 調査結果	
(1) 夫婦の出生数の減.....	2
①子どもの人数 .....	2
②子どもを生き育てることの負担や不安.....	4
③仕事と子育ての両立 .....	5
(2) 結婚数の減.....	10
(3) 行政に期待する施策 .....	15
①子育て環境整備 .....	15
②仕事と子育ての両立支援.....	17
③未婚化・晩婚化対策.....	18
(4) 子育て・結婚支援についてのご意見ご要望 .....	19

# 「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」

平成31年3月

健康福祉部子ども・子育て支援課

## 1. 調査の概要

### (1) 趣旨

島根県では、「子ども・子育て支援法」に基づき「島根県子ども・子育て支援推進会議」を設置し、子ども・子育てに関する支援についてのあり方や進め方などについて検討を進めていくこととしています。

そこで今後の少子化対策の推進及び次代の島根を担う子どもたちの健やかな成長を支えるための「島根県子ども・子育て支援事業支援計画」策定の基礎調査とするため、「島根県子育て・結婚支援に関する意識調査」を実施しました。

### (2) 概要

#### ①調査対象

島根県内に居住する18歳以上50歳未満の男女（サンプル数3,000人）

#### ②調査方法

各市町村住民基本台帳・選挙人名簿より無作為抽出(平成30年12月1日現在)し、郵送による配布・回収

#### ③回収結果

回収数：1,046通 有効回答数：1,046通 無効数：0通

#### ④調査の設問項目の設定

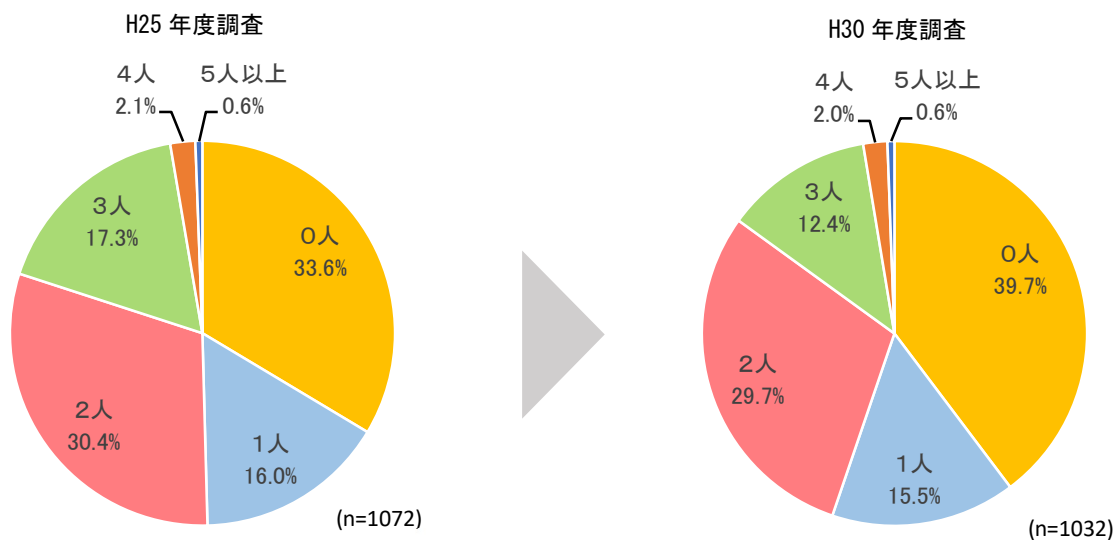
本調査は主として少子化の主な要因である「夫婦の出生数の減」、「結婚数の減」について、過去に島根県が実施した調査結果との比較を行いながら、実施しました。

## 2. 調査結果

### (1) 夫婦の出生数の減

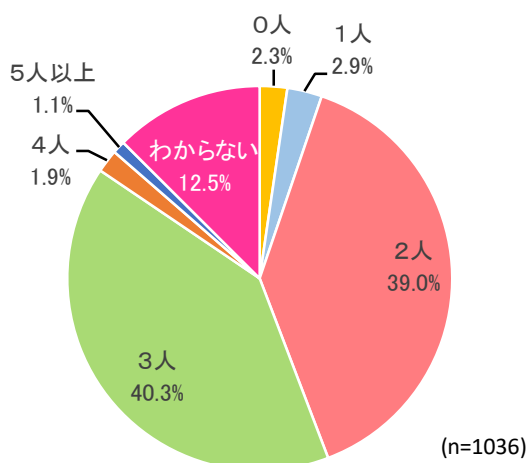
#### ①子どもの人数

子どもの人数については、「0人（未婚を含む）（39.7%）」が最も割合が高く、次いで「2人（29.7%）」の割合が高くなっています。H25年度調査と比較すると、「0人」が6.1ポイント増加、「3人」が4.9ポイント減少しています。（図1参照）

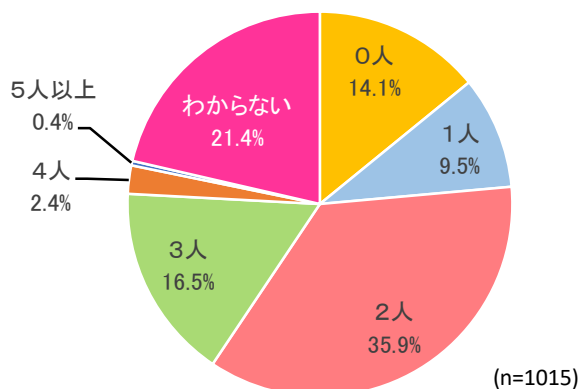


<図1 子どもの人数>  
(回答対象=すべての方)

理想的な子どもの数は「3人（40.3%）」の割合が最も高く、また、平均で2.5人となっています。一方で、実際に予定している子どもの数は「2人（35.9%）」の割合が最も高く、また、平均で1.8人となっています。（図2、図3、表1参照）



<図2 理想的な子どもの数>  
(回答対象=すべての方)

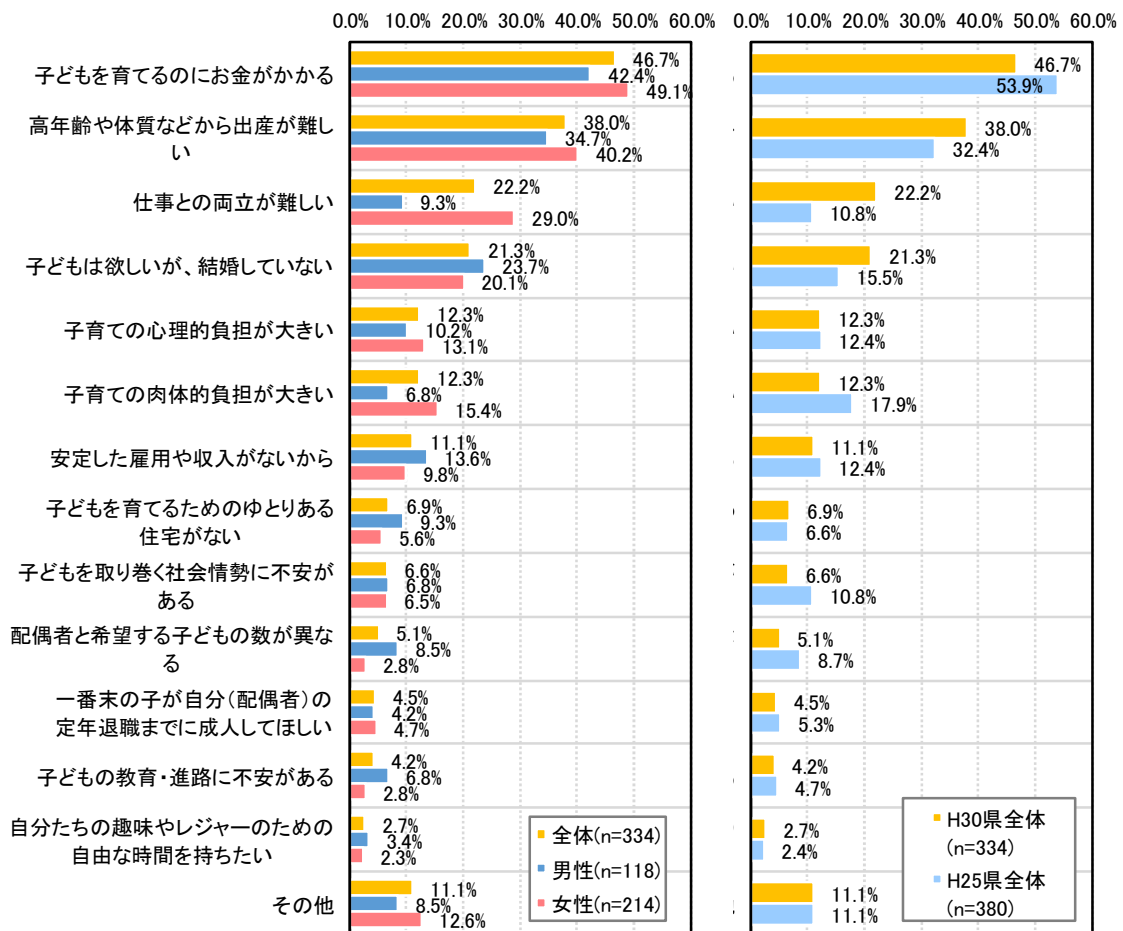


<図3 実際に予定している子どもの数>  
(回答対象=すべての方)

<表1 理想的な子どもの数と実際に予定している子どもの数の平均>

	理想的な子ども数(平均)				実際に予定している子どもの数(平均)			
	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳
H30年度調査	2.5	2.3	2.5	2.5	1.8	1.5	2.0	1.8
H25年度調査	2.6	2.5	2.6	2.6	2.0	1.8	2.1	1.9
H20年度調査	2.7	2.5	2.7	2.8	2.0	1.6	2.0	2.1
H15年度調査	2.7	2.4	2.6	2.8	2.2	2.0	2.0	2.3

実際に予定している子どもの数が理想より少ない理由は、「子どもを育てるのにお金がかかる(48.8%)」の割合が最も高く、次いで「高年齢や体質などから出産が難しい(38.0%)」の割合が高くなっています。男女別にみると、「仕事との両立が難しい(22.2%)」は、女性(29.0%)は割合が高いのに対して、男性(9.3%)は1割未満となっています。また、H25年度調査と比較すると、「子どもを育てるのにお金がかかる(48.8%)」は7.2ポイント減少、「仕事との両立が難しい(22.2%)」が11.4ポイント増加、「子どもは欲しいが、結婚していない(21.3%)」が5.8ポイント増加しています。



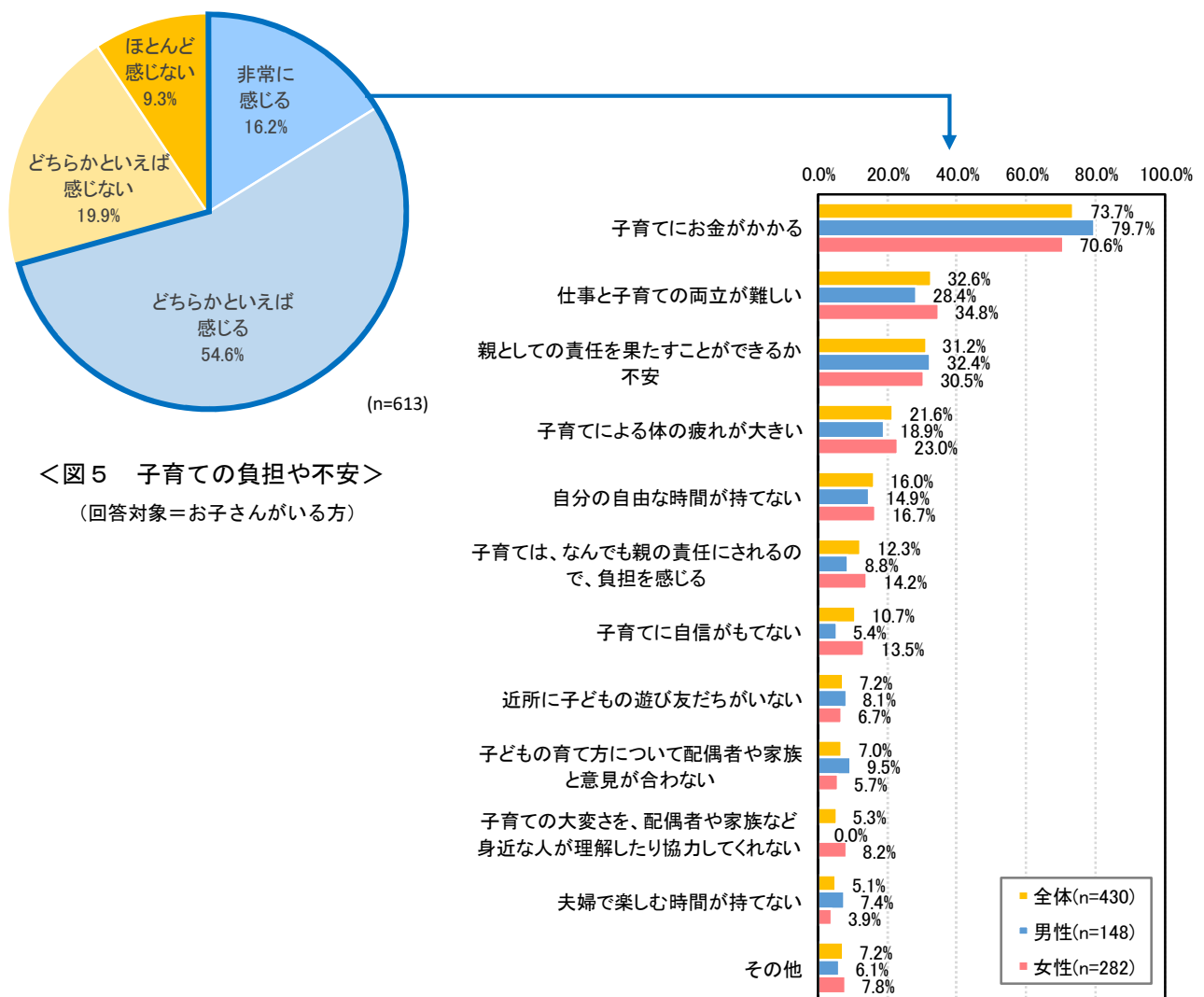
<図4 実際に予定している子どもの数が理想より少ない理由>

(回答対象=実際に予定している子どもの数が理想的な子どもの数より少ない方【複数回答あり】)

## ②子どもを生き育てることの負担や不安

子育てをする上での負担や不安については、「非常に感じる (16.2%)」、「どちらかといえば感じる (54.6%)」を合わせると7割の方が負担や不安を感じています。(図5参照)

負担や不安を感じている方のその内容は、「子育てにお金がかかる (73.7%)」の割合が最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しい (32.6%)」、「親としての責任を果たすことができるか不安 (31.2%)」が高い割合となっています。(図6参照)



＜図5 子育ての負担や不安＞

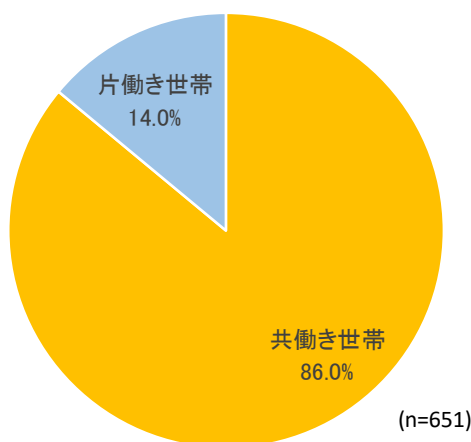
(回答対象=お子さんがいる方)

＜図6 子育ての負担や不安の内容＞

(回答対象=お子さんがいる方で子育てをする上で負担や不安を感じる方【複数回答あり】)

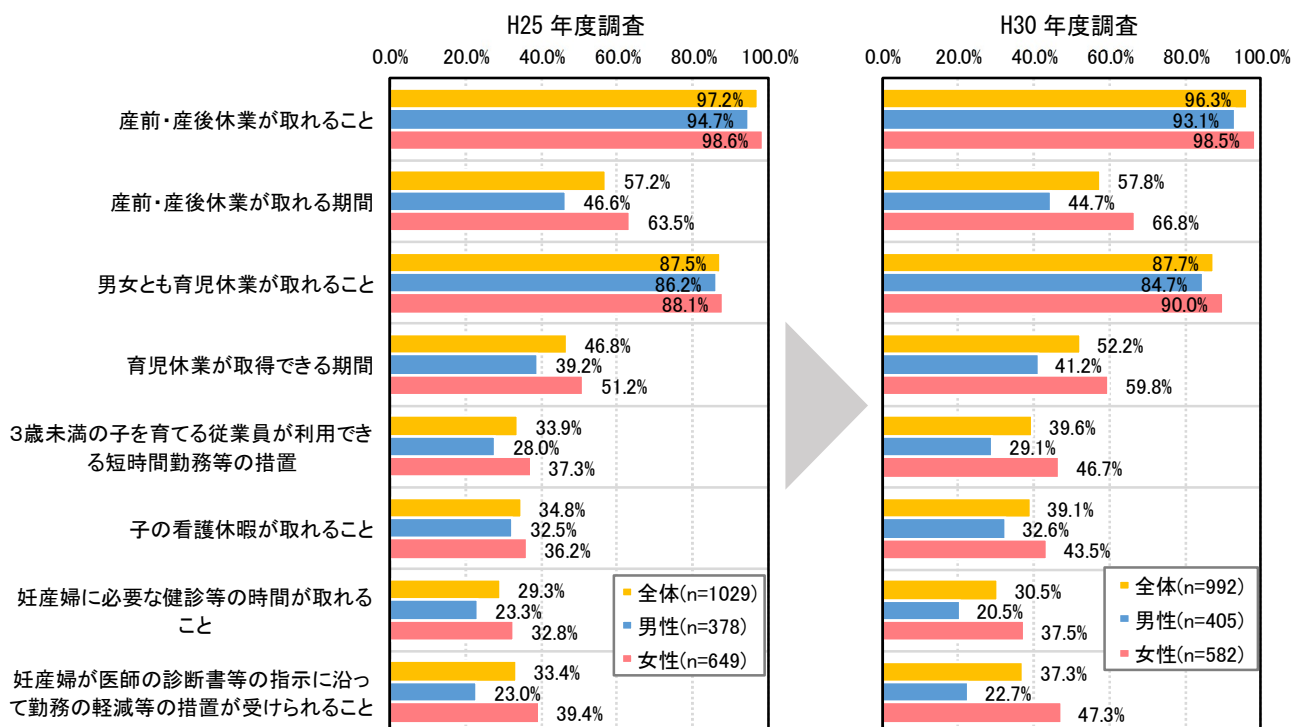
### ③仕事と子育ての両立

既婚者における夫婦の就労状況については、「共働き世帯（86.0%）」が8割以上を占めています。（図7参照）



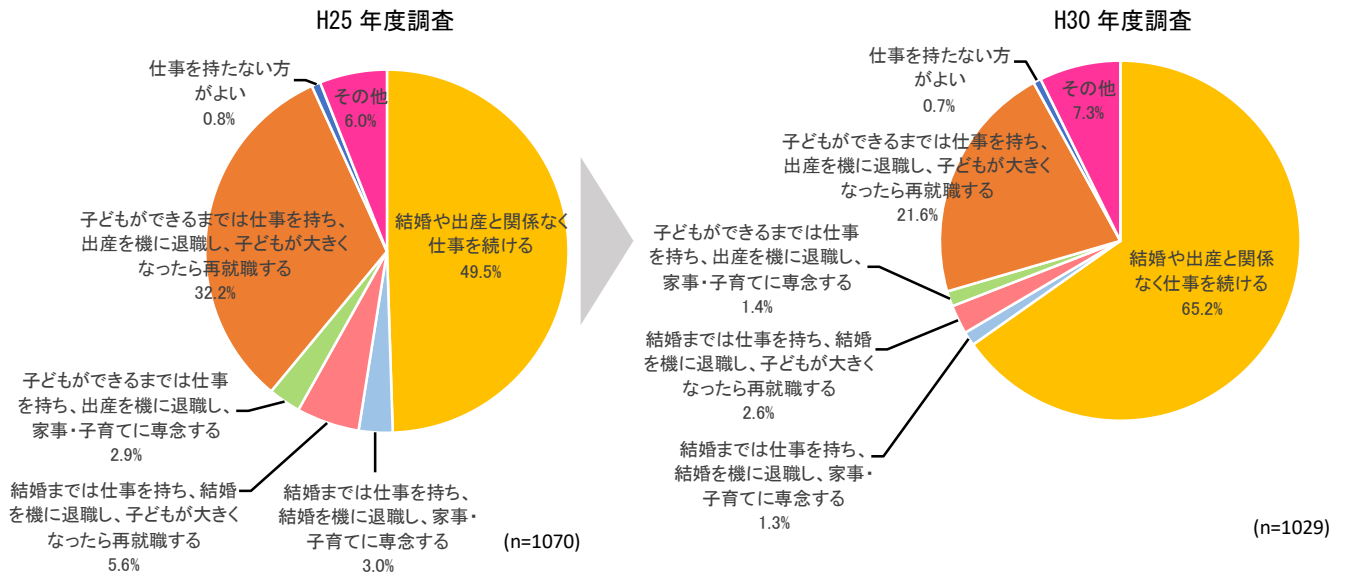
＜図7 夫婦の就労状況＞  
（回答対象＝配偶者がいる方）

子育て支援制度の認知度については、H25年度調査と比較すると、「育児休業が取得できる期間（52.2%）」が5.4ポイント増加、「3歳未満の子を育てる従業員が利用できる短時間勤務等の措置（39.6%）」が5.7ポイント増加、「子の看護休暇が取れること（39.1%）」が4.3ポイント増加、「妊産婦が医師の診断書等の指示に従って勤務の軽減等の措置が受けられること（37.3%）」が3.9ポイント増加しています。男女別にみると、女性はH25年度調査と比べ各制度の認知度が向上しているのに対して、男性は認知度の向上があまりみられず制度が浸透していないことがうかがえます。（図8参照）



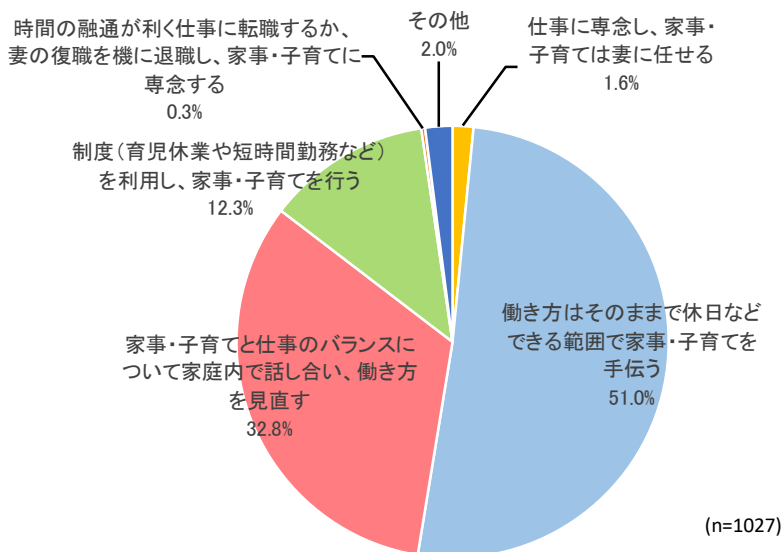
＜図8 子育て支援制度の認知度＞  
（回答対象＝すべての方【複数回答あり】）

女性の就業の望ましいあり方については、H25年度調査と比較すると、「結婚や出産と関係なく仕事を続ける（65.2%）」が15.7ポイント増加、「子どもができるまでは仕事をもち、出産を機に退職し、子どもが大きくなったら再就職をする（21.6%）」が10.6ポイント減少しており、女性も仕事を続けることが望ましい傾向にあることがうかがえます。（図9参照）



＜図9 女性の就業の望ましいあり方＞  
（回答対象＝すべての方）

男性の就業や望ましい家事・子育ての関わり方については、「働き方はそのまま休日などできる範囲で家事・子育てを手伝う（51.0%）」の割合が最も高く、次いで「家事・子育てのバランスについて家庭内で話し合い、働き方を見直す（32.8%）」が高い割合となっており、女性が仕事を続ける傾向が強まるにつれ、制度ではなく家庭での協力を必要とする傾向にあることがうかがえます。（図10参照）

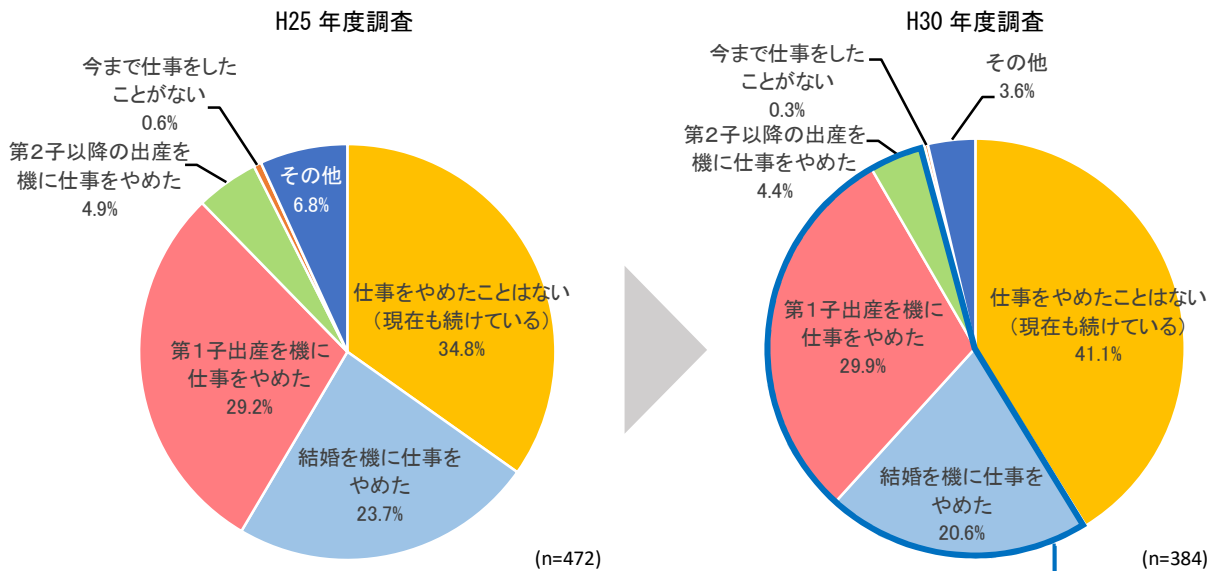


＜図10 男性の就業や望ましい家事・子育ての関わり方＞  
（回答対象＝すべての方）

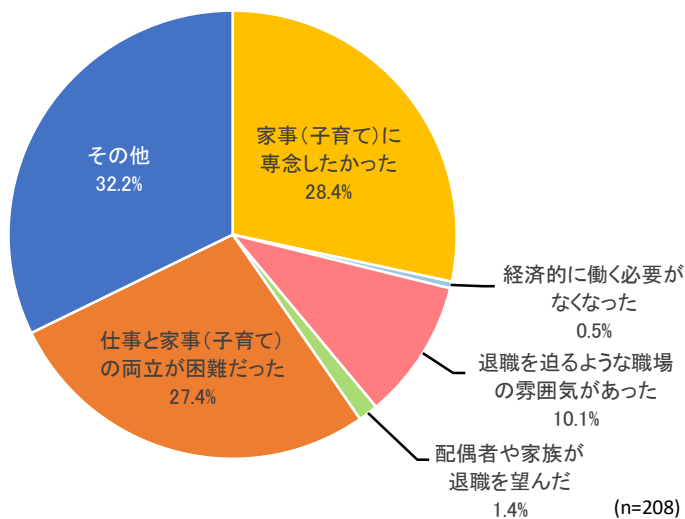


女性における結婚や出産を機に仕事をやめた経験の有無については、H25 年度調査と比較すると、「仕事をやめたことはない（現在も続けている）（41.1%）」が 6.3 ポイント増加しています。（図 1 1 参照）

また、仕事をやめた理由としては、「家事（子育て）に専念したかった（28.4%）」の割合が最も高く、次いで「仕事と家事（子育て）の両立が困難だった」が高い割合となっています。（図 1 2 参照）

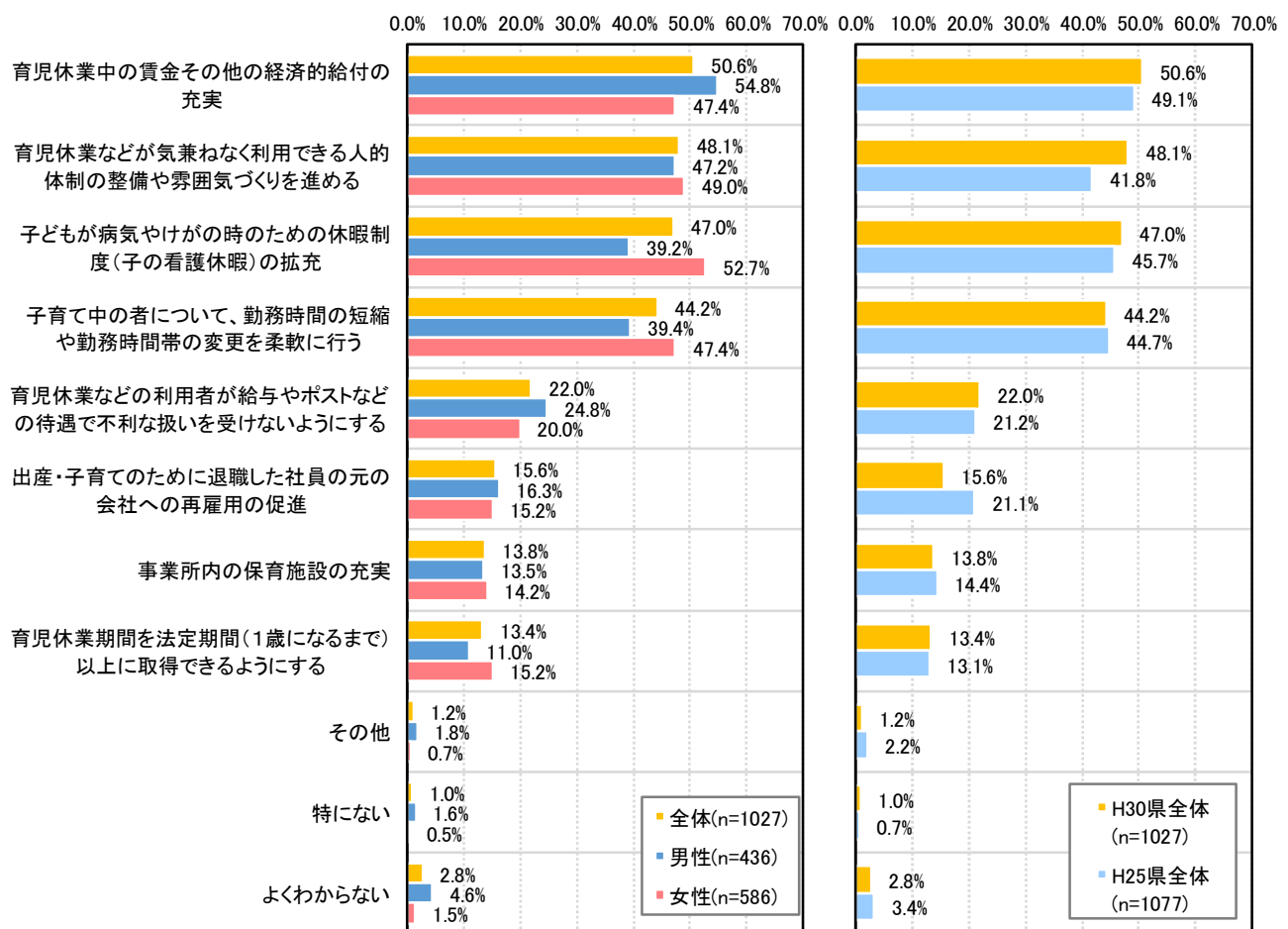


＜図 1 1 結婚や出産を機に仕事をやめた経験＞  
（回答対象＝お子さんがいる女性）



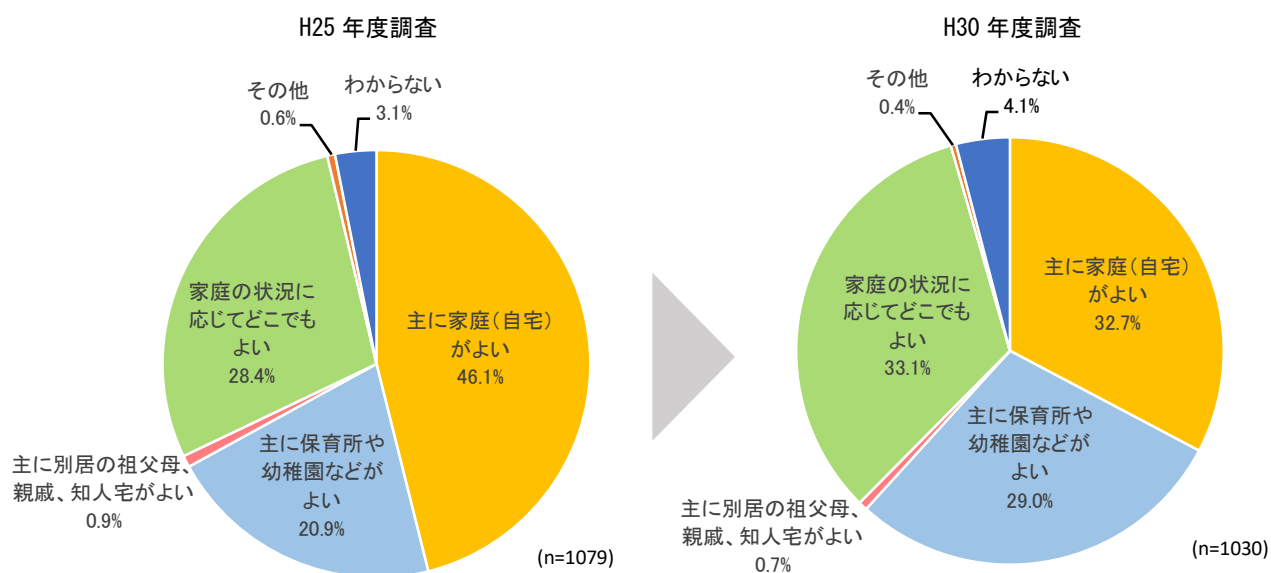
＜図 1 2 仕事をやめた理由＞  
（回答対象＝お子さんがいる女性で結婚・出産を機に仕事をやめた経験がある方）

仕事と子育てを両立するために職場において必要な取り組みについては、「育児休業中の賃金その他の経済的給付の充実（50.6%）」の割合が最も高く、次いで「育児休業などが気兼ねなく利用できる人的体制の整備や雰囲気づくりを進める（48.1%）」、「子どもが病気やけがの時のための休暇制度（子の看護休暇）の拡充（47.0%）」、「子育て中の者について、勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更を柔軟に行う（44.2%）」が高い割合となっており、子育てを支援する制度の充実とともにそれらの制度を利用しやすい環境を望んでいる傾向にあることがうかがえます。また、H25年度調査と比較すると、「育児休業などが気兼ねなく利用できる人的体制の整備や雰囲気づくりを進める（48.1%）」が6.3ポイント増加しています。（図13参照）



<図13 仕事と子育てを両立するために職場において必要な取り組み>  
(回答対象=すべての方【複数回答あり】)

子どもが3歳くらいまでの適当な昼間の子育ての場所については、H25年度調査と比較すると、「主に家庭（自宅）がよい（32.7%）」が13.4ポイント減少、「主に保育所や幼稚園などがよい（29.0%）」が8.1ポイント増加しており、家庭よりも保育所等を望む傾向にあることがうかがえます。（図14参照）

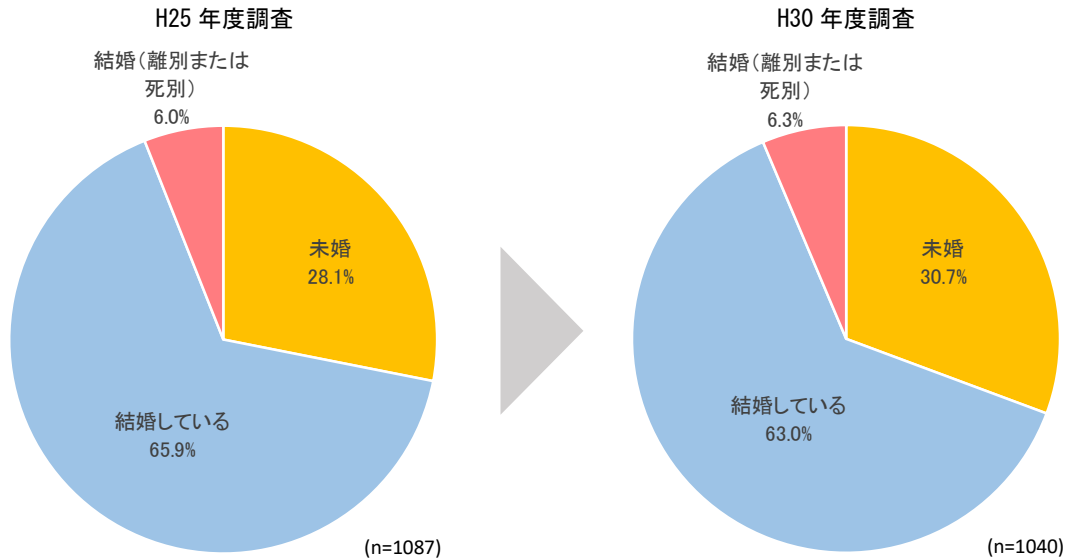


＜図14 子どもが3歳くらいまでの適当な昼間の子育ての場所＞

（回答対象=すべての方）

## (2) 結婚数の減

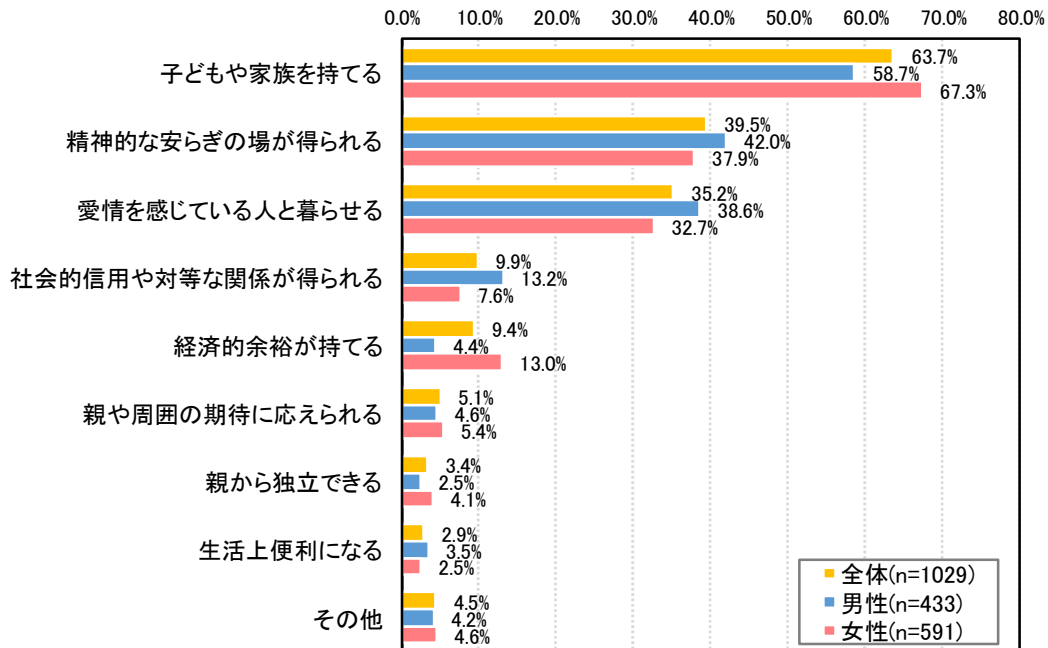
婚姻状況については、H25年度調査と比較すると、「結婚している（63.0%）」が3.8ポイント減少しています。（図15参照）



<図15 婚姻状況>

（回答対象=すべての方）

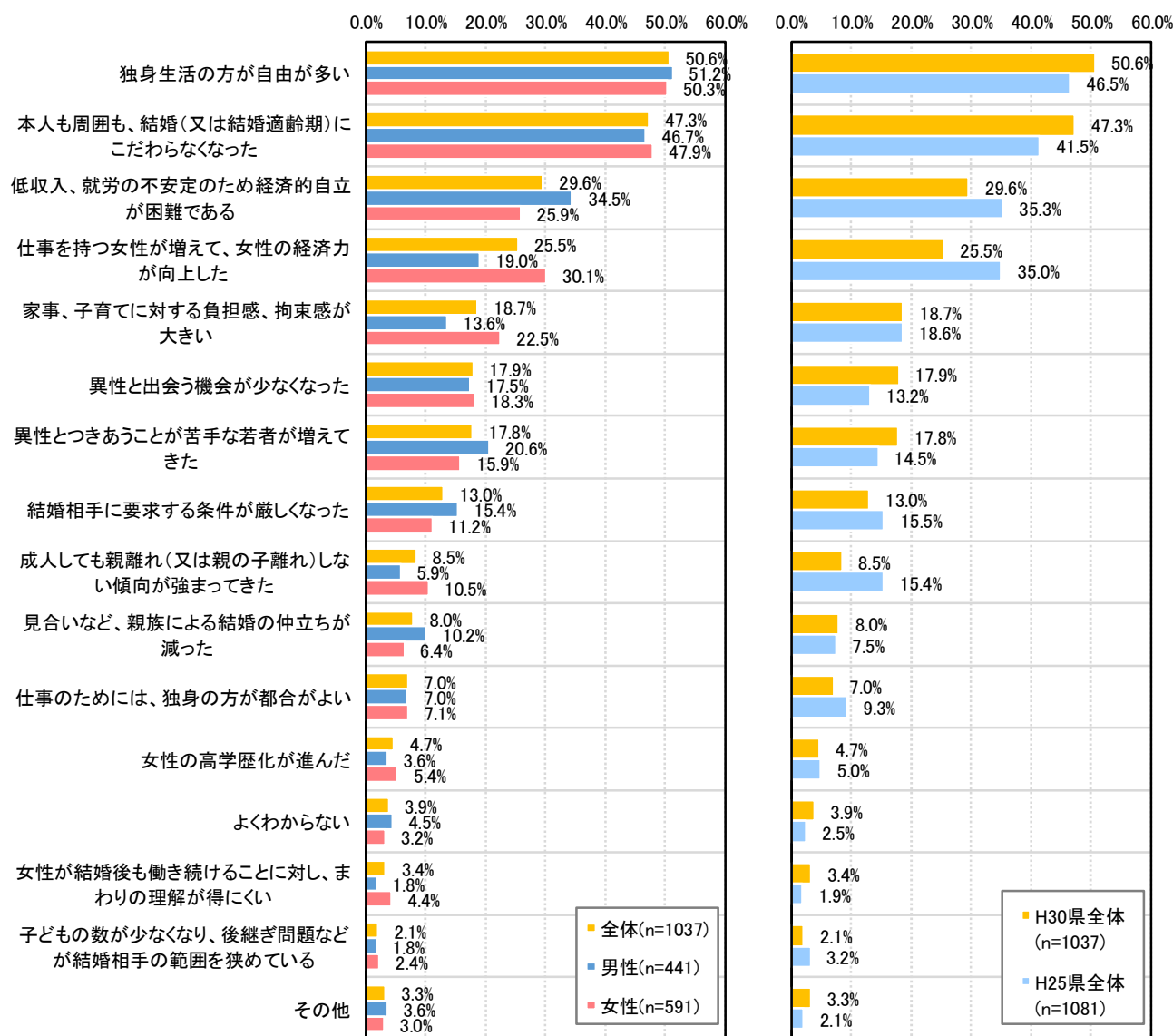
結婚の利点については、「子どもや家族を持てる（63.7%）」の割合が最も高く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる（39.5%）」、「愛情を感じている人と暮らせる（35.2%）」が高い割合となっています。（図16参照）



<図16 結婚の利点>

（回答対象=すべての方【複数回答あり】）

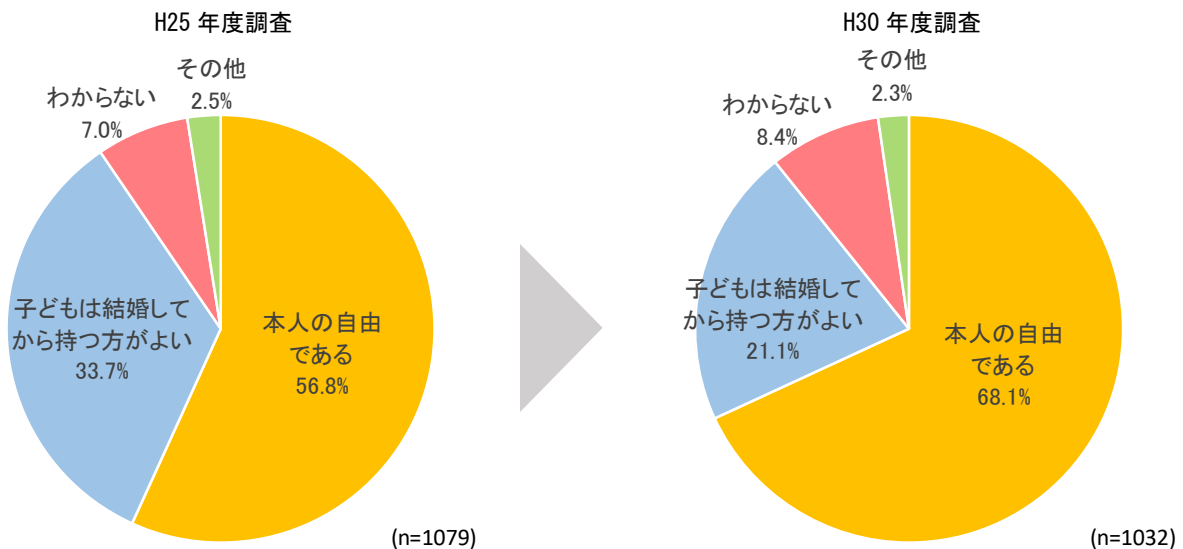
結婚しない人が増えている理由については、H25年度調査と比較すると、「独身生活の方が自由が多い（50.6%）」が4.1ポイント増加、「本人も周囲も、結婚（又は結婚適齢期）にこだわらなくなった（47.3%）」が5.8ポイント増加、「異性と出会う機会が少なくなった（17.9%）」が4.7ポイント増加、「異性と付き合うことが苦手な若者が増えてきた（17.8%）」が3.3ポイント増加しており、結婚にこだわりがなくなり自分の人生を楽しむ傾向、出会う機会の減少傾向にあることがうかがえます。（図17参照）



＜図17 結婚しない人が増えている理由＞

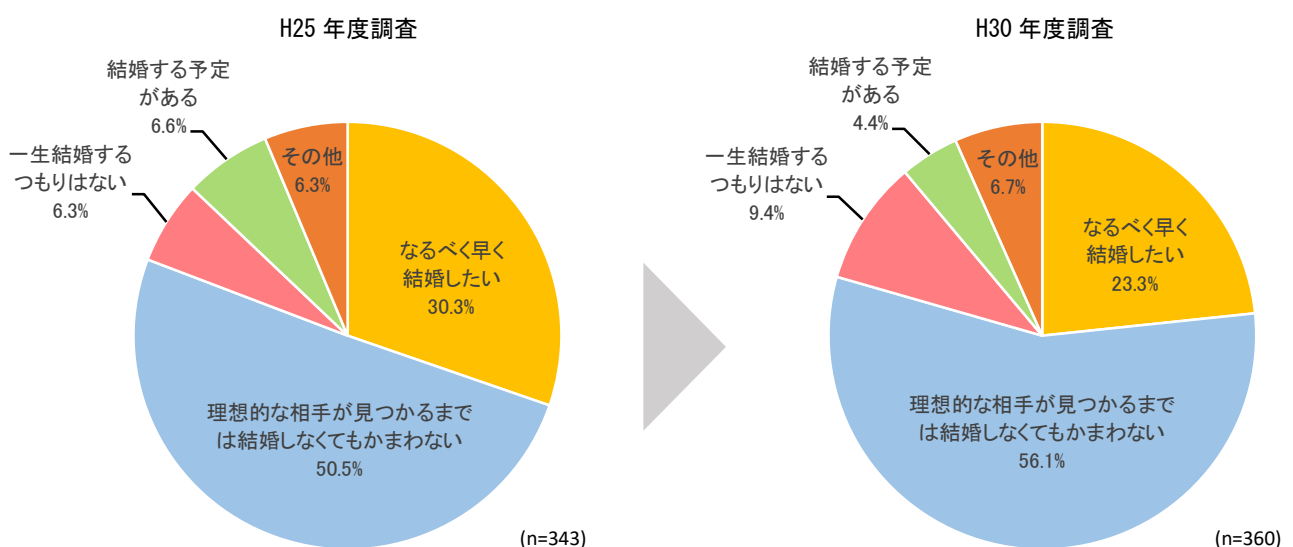
(回答対象=すべての方【複数回答あり】)

結婚しないで子どもを持つことについては、H25年度調査と比較すると、「本人の自由である（68.1%）」が11.3ポイント増加、「子どもは結婚してから持つ方がよい（21.1%）」が12.6ポイント減少しており、結婚に縛られる価値観の減少傾向があることがうかがえます。（図18参照）



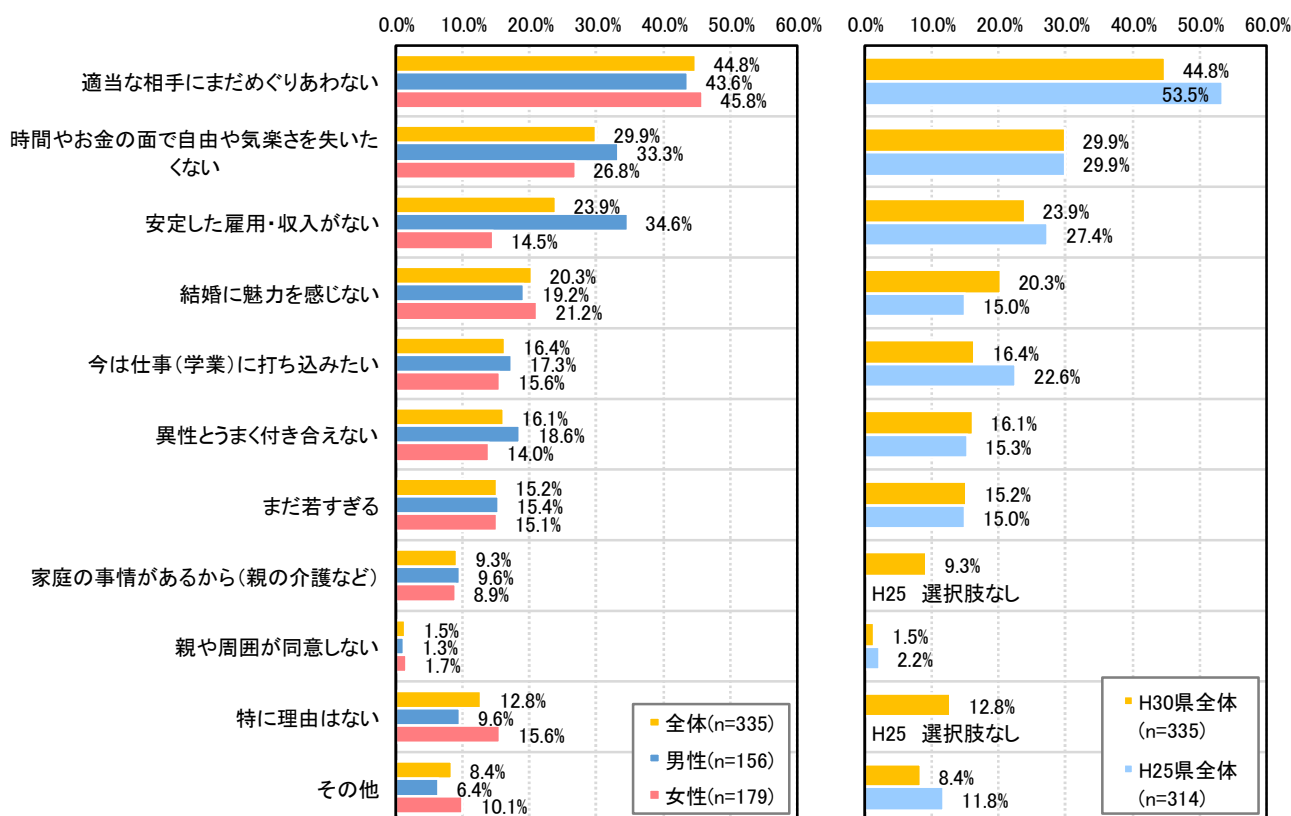
＜図18 結婚しないで子どもを持つことについて＞  
（回答対象=すべての方）

未婚者の結婚に対する考えについては、H25年度調査と比較すると、「なるべく早く結婚したい（23.3%）」が7.0ポイント減少、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない（56.1%）」が5.6ポイント増加しています。（図19参照）



＜図19 結婚に対する考え＞  
（回答対象=未婚の方（結婚後、離別・死別された方を含む））

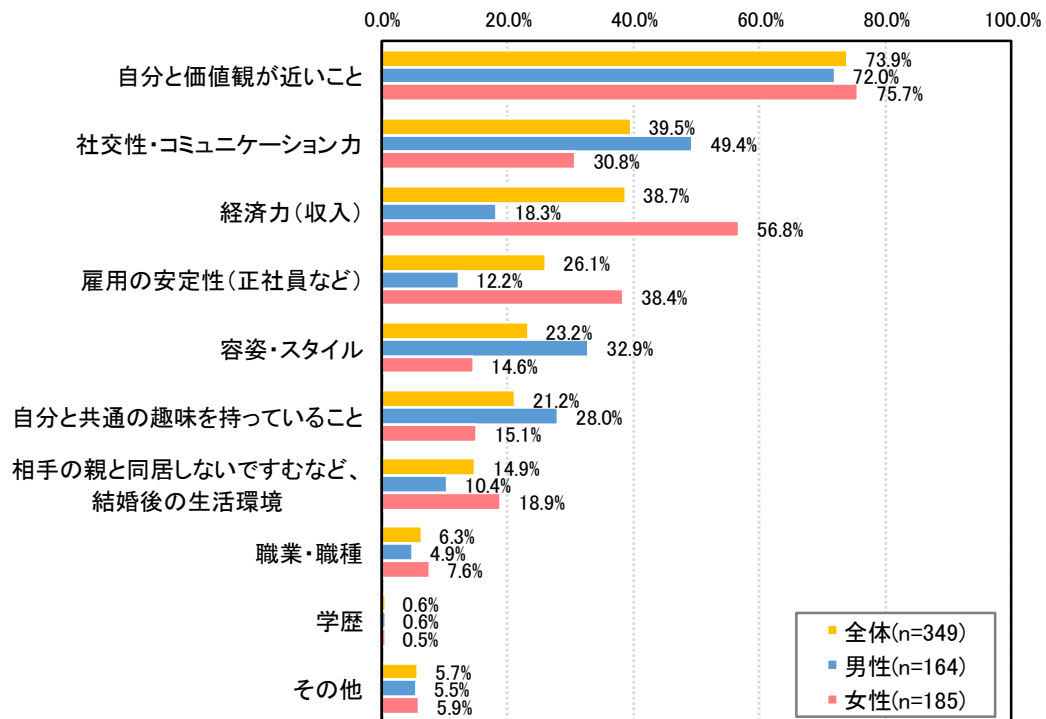
未婚者の独身でいる理由は、「適当な相手にまだめぐりあわない（44.8%）」の割合が最も高く、次いで「時間やお金の面で自由や気楽さを失いたくない（29.9%）」、「安定した雇用・収入がない（23.9%）」、「結婚に魅力を感じない（20.3%）」が高い割合となっています。また、H25年調査と比較すると、「今は仕事（学業）に打ち込みたい（16.4%）」が6.2ポイント減少、「結婚に魅力を感じない（20.3%）」が5.3ポイント増加しており、出会いを待っている傾向、仕事に打ち込みたいわけでもなく結婚に魅力を感じていない傾向にあることがうかがえます。（図20参照）



<図20 独身でいる理由>

(回答対象=結婚する予定がない未婚の方(結婚後、離別・死別された方を含む)【複数回答あり】)

未婚者の結婚相手に望むものについては、「自分と価値観が近いこと（73.9%）」が最も高くなっています。男女別にみると、「経済力（収入）（38.7%）」について女性（56.8%）は男性（18.3%）よりも重視している傾向がうかがえます。（図21参照）



<図 2 1 結婚相手に望むもの>

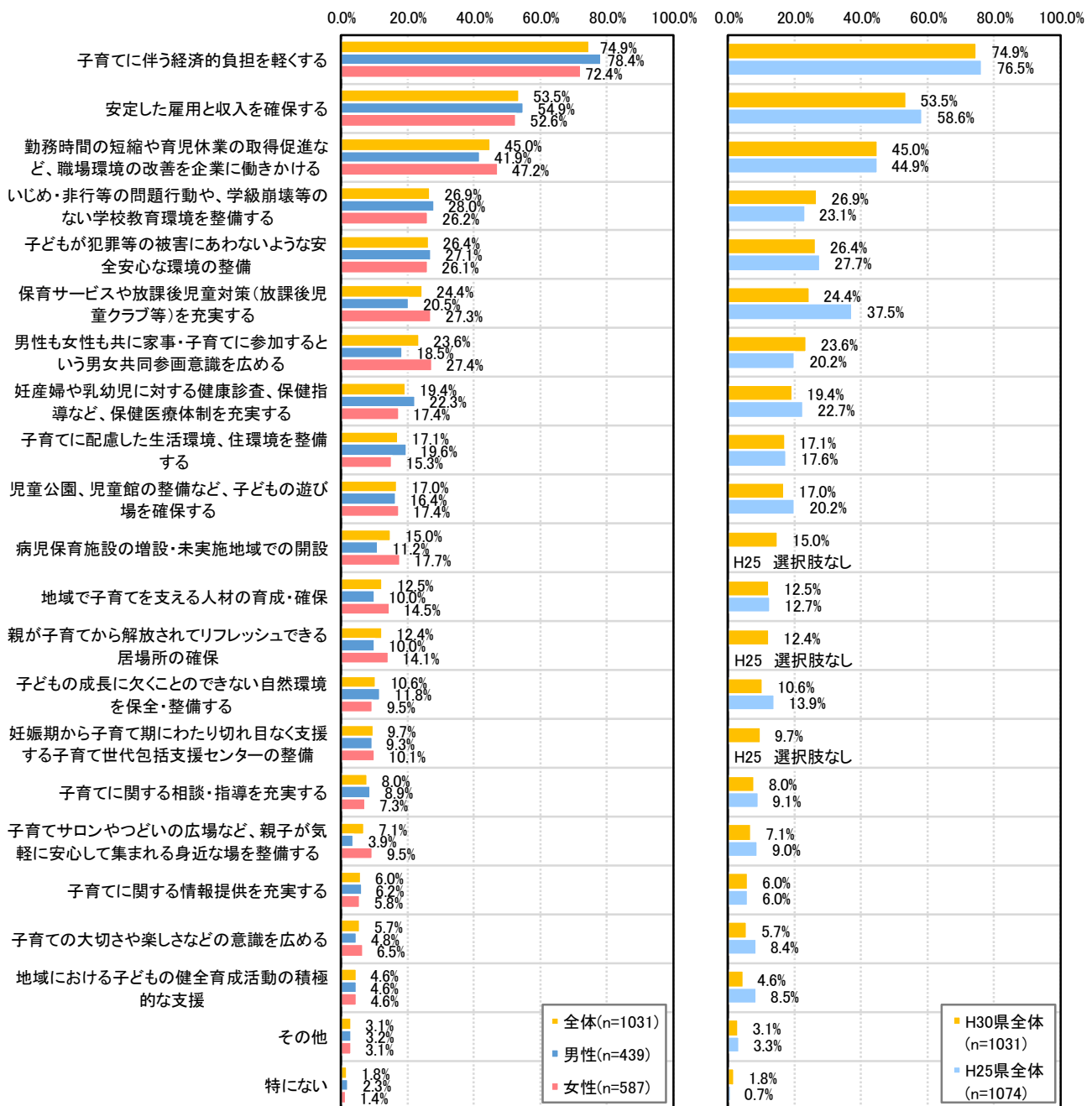
(回答対象=未婚の方(結婚後、離別・死別された方を含む)【複数回答あり】)



### (3) 行政に期待する施策

#### ①子育て環境整備

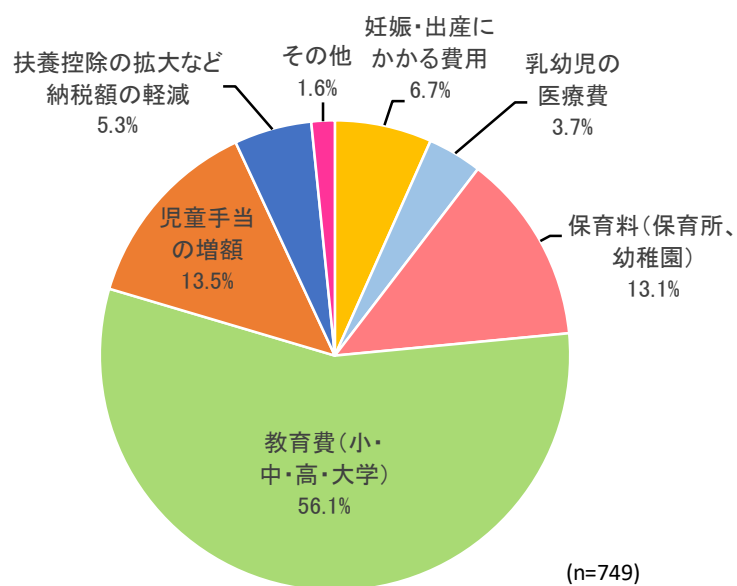
子育て環境の整備のために行政に期待する施策については、「子育てに伴う経済的負担を軽くする (74.9%)」の割合が最も高く、次いで、「安定した雇用と収入を確保する (53.5%)」、「勤務時間の短縮や育児休業の取得促進など、職場環境の改善を企業に働きかける (45.0%)」が高い割合になっています。男女別にみると、「保育サービスや放課後児童対策 (放課後児童クラブ等) を充実する (24.4%)」、「病児保育施設の増設・未実施地域での開設 (15.0%)」、「男性も女性も共に家事・子育てに参加するという男女共同参画意識を広める (23.6%)」について女性は男性よりも選択割合が高く、女性は子どもを預けられる環境の整備や男女共同参画意識の浸透をより期待している傾向にあることがうかがえます。(図2.2参照)



＜図2.2 子育て環境の整備のために行政に期待する施策＞

(回答対象=すべての方【複数回答あり】)

経済的負担の軽減のうち何が求められているかについては、「教育費（小・中・高・大学）（56.1%）」の割合が最も高くなっています。（図2-3参照）

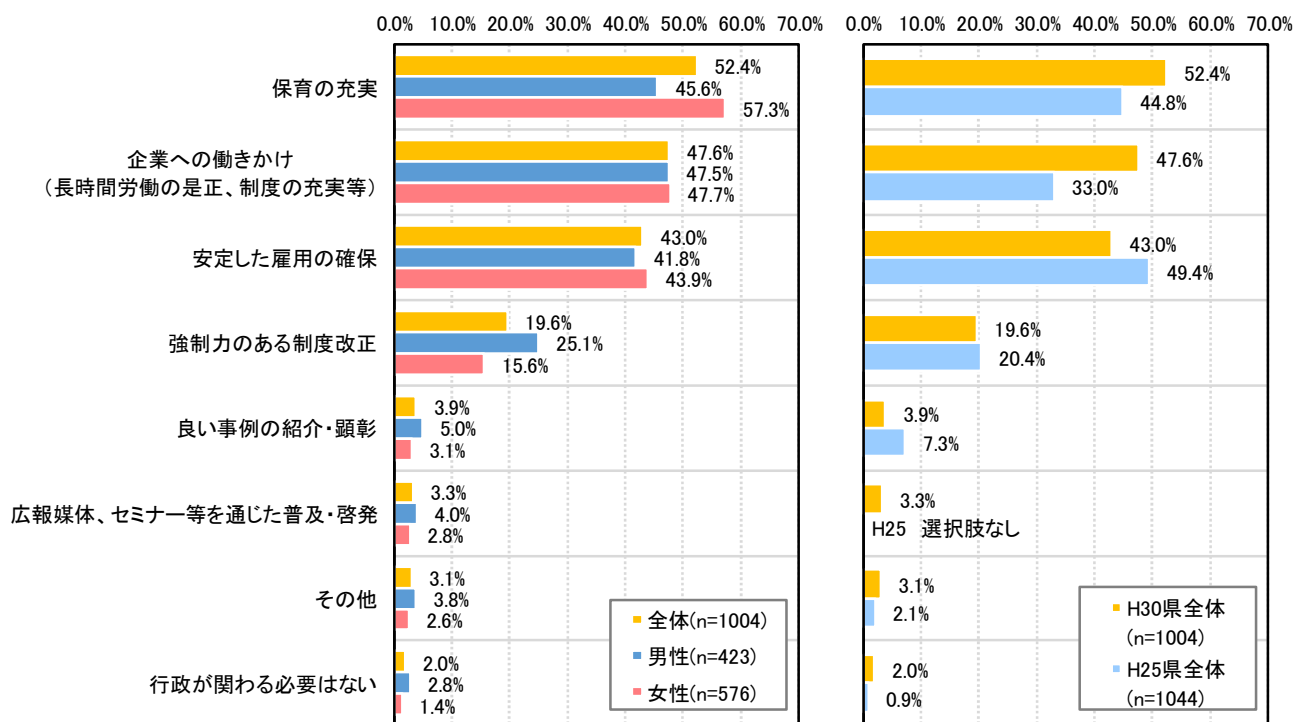


<図2-3 充実すべき経済的支援>

(回答対象=「子育てに伴う経済的負担を軽くする」とお答えの方)

## ②仕事と子育ての両立支援

仕事と子育ての両立のために行政に期待する施策については、「保育の充実（52.4%）」の割合が最も高く、次いで「企業への働きかけ（長時間労働の是正、制度の充実等）（47.6%）」、「安定した雇用の確保（43.0%）」が高い割合となっており、保育の充実と職場環境の改善を期待している傾向にあることがうかがえます。男女別にみると、「保育の充実（52.4%）」について女性（57.3%）は男性（45.6%）より選択割合が高く、子育て環境整備同様、保育に関して期待している傾向にあることがうかがえます。また、H25年度調査と比較すると、「保育の充実（52.4%）」が7.6ポイント増加、「企業への働きかけ（長時間労働の是正、制度の充実等）（47.6%）」が14.6ポイント増加しています。（図2-4参照）

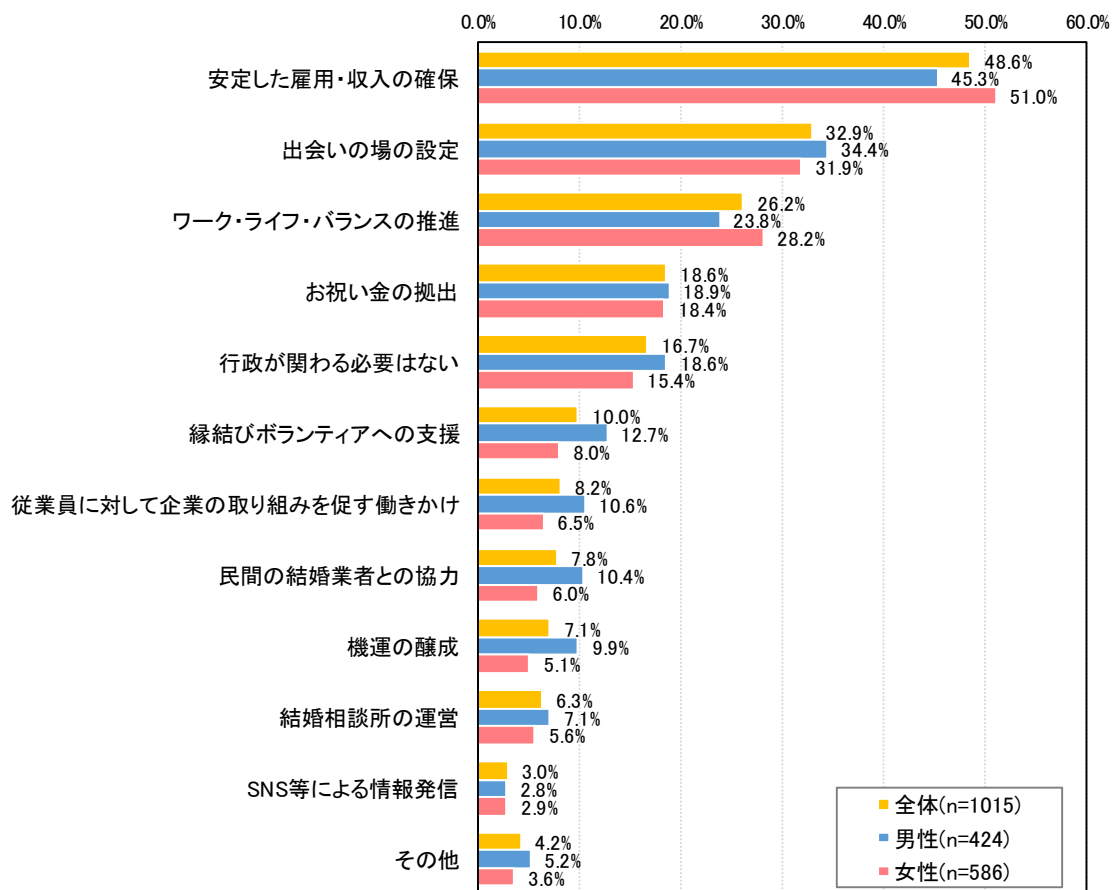


＜図2-4 仕事と子育ての両立のために行政に期待する施策＞

（回答対象=すべての方【複数回答あり】）

### ③未婚化・晩婚化対策

未婚化・晩婚化対策のために行政に期待する施策については、「安定した雇用・収入の確保（48.6%）」の割合が最も高く、次いで「出会いの場の設定（32.9%）」、「ワーク・ライフ・バランスの推進（26.2%）」、「お祝い金の拠出（18.6%）」が高い割合となっており、出会いの場や収入・インセンティブを望む傾向にあることがうかがえます。（図25参照）



＜図25 未婚化・晩婚化対策のために行政に期待する施策＞  
 （回答対象＝すべての方【複数回答あり】）

(4) 子育て・結婚支援についてのご意見ご要望

	18～29歳		30～39歳		40～49歳		50歳以上		総計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
<b>1. 子育て環境(経済)</b>									<b>110</b>
1-1. 経済全般	3	2	5	7	2	10			29
1-2. 医療費		1	2	10	3	9			25
1-3. 教育費	1		2		2	7			12
1-4. 経済支援		3	2	3	2	1			11
1-5. 安定した雇用と収入の確保	1			2	1	2			6
1-6. 不妊治療費			2	2		2			6
1-7. 児童手当		1		1		3			5
1-8. こころカード		1	1			1			3
1-9. 保育料				1	1				2
1-10. その他	1	1		4	2	3			11
<b>2. 子育て環境(経済以外)</b>									<b>77</b>
2-1. 環境整備	3	6		4		5			18
2-2. 保育		3	1	9	2	3			18
2-3. 教育	1	1	1	6	2	4			15
2-4. 児童クラブ				2		4			6
2-5. 医療	1	1		1					3
2-6. 親への教育			1		2				3
2-7. その他				6	1	6		1	14
<b>3. 仕事との両立</b>									<b>33</b>
3-1. 休暇、勤務時間				4	3	2			9
3-2. 企業への働きかけ、企業意識の改革			2	5					7
3-3. 女性の就業について	1	1		3	1	1			7
3-4. その他		1	2	1	1	5			10
<b>4. 未婚化・晩婚化</b>									<b>45</b>
4-1. 出会いの場の設置	1	2	1		3	5			12
4-2. 結婚支援		1	1	1	2	1			6
4-3. 個人の自由		1			1	3			5
4-4. 結婚のよさのPR				1	2	1			4
4-5. 未婚化・晩婚化の原因	1				1	1			3
4-6. その他		1	1	5	3	5			15
<b>5. 少子化</b>									<b>32</b>
5-1. I・Uターン	3			1					4
5-2. 個人の自由	1		1		1				3
5-3. 不妊治療		1	1			1			3
5-4. 社会変化					2				2
5-5. 企業誘致	1			1					2
5-6. その他	2	5	2	2	5	1		1	18
<b>6. その他</b>									<b>51</b>
6-1. 行政に対する意見	1	1	2	2	3	6			15
6-2. アンケートについて		1	2	6	2	3			14
6-3. その他	4	2	2	7	1	6			22

1. 子育て環境(経済)		
1-1. 経済全般		
保育所の入所が困難(希望したところへ)・経済的負担が大きすぎる。納税や控除など、軽減して欲しい。・保育料の軽減を・保育所の増設、保育士の就業サポート、給与アップ。	男性	18～29 歳
収入面や子供が保育園に入れず配偶者が働けなくなったらどうするか。と考えると簡単に結婚を考える事ができない。	男性	18～29 歳
子供が0歳なので今はありませんが、子供が大きくなっていくと色々お金が要るんだろうなと感じています。	男性	18～29 歳
条件に「公務員世帯の除く」というフレーズをよく見ますが「公務員」で条件を付けるのではなく「年収〇〇円以上」の方が良いと思います。公務員も収入が減っているので厳しいです。	女性	18～29 歳
結婚後の生活するためのお金に心配や不安があり、なかなか進まない。	女性	18～29 歳
子供3人にかかる費用が沢山あり、給料だけではまかなえない。教育費以外にも、遊ぶ・ゲームのお金が沢山かかる。3人で月に3万円は使っている。	男性	30～39 歳
子供が3人いますが金銭的にも厳しく生活に余裕がない。妻も私も、仕事の勤務時間が不安定で妻が職を変えることになり、現在休職中。休日・時間・給料などなかなか職がない。この先に不安がある。	男性	30～39 歳
児童手当の拡充。授業料免除・無償化。結婚後、最低限の生活を保障する手当を支給。	男性	30～39 歳
保育園に預けるにもお金が掛かり何人も育てるのは、今の日本では厳しいです。地方ならなおさら厳しいかと思えます。	男性	30～39 歳
紙オムツ代金が高い。行政の補助があると嬉しい。	男性	30～39 歳
今の不況の中では、結婚・子育てに明るいビジョンが特に男性は思い描くことは出来ないと思う。1人で生活するだけで精一杯な人が浜田には多いが、出産1人につき1000万円国から支給されるなら子供は増えるでしょう。市職員の多すぎるボーナス・給料を他へ充ててはどうか。	女性	30～39 歳
児童の教育費などの免除・無償化など生活費の支給。	女性	30～39 歳
待機児童のために、保育料が高い認可外保育園に入ることになり生活に困りました。子育てする上で、金銭的不安の相談や情報を得られるようになれば良いと思います。	女性	30～39 歳
何年も前から少子高齢化と言われているのに、保育料は高いし教育にもお金はかかるので子供が自立するまでの親の負担は変わらず大きいなと思います。将来を担う子供達の為に良い策を行政には考え実行してほしいと思います。	女性	30～39 歳
部屋に飾る家具などや観葉植物など安く提供できるようにしてほしい。スーパーの食べ物など安くして欲しい。	女性	30～39 歳
いろいろとお金がかかり、子供を産めない、育てられない。	女性	30～39 歳
どちらかが離婚経験あり養育費等払っている上で2人、3人と子育てすることには迷いがあります。どうか子供をつくりたい、育てたいと思える島根県にして下さい。	女性	30～39 歳
経時的支援は大切だが、何でも無償にするのではなく扶養控除の拡大で、利用するものを自分で考えてすべきである。無償を増加させると、行政の自己負担や必要のないものまでやってしまう(例えば、医療費の増大)ことにも繋がってしまうと思います。	男性	40～49 歳
経済的な余裕と社会環境(保育士の処遇改善、人手不足の解消)の改善がないと結婚・子育ては難しくなる一方だと思います。	男性	40～49 歳
以前に比べて医療費がかからなくなり、子育てのお金の面は充実したと思う。	女性	40～49 歳
子育てや結婚はやっぱりお金がかかる。	女性	40～49 歳
子育て支援は経済面でこれ以上の支援の必要性を感じない。無料で当たり前の現在がおかしいと思う。	女性	40～49 歳
子供にかかるお金などを考えると大変です。もっと全体的に見直していくべきだと考えます。	女性	40～49 歳
パートで働いていますが収入としては8万円くらい、夫は正職員として働いて40代で手取り20万円前半。2人の保育園児を育てつつ、生活はギリギリです。島根の給料水準がもう少し上がることを期待したい。	女性	40～49 歳
農業は結婚・出産後もやれる仕事なので、ある程度収入が確保できる体制が欲しい。	女性	40～49 歳
結婚出産後もできる仕事として女性の農家進出のためになることを発信して欲しい。	女性	40～49 歳
親や子が相談出来る相手が少ない社会、経済であるため、進路に悩み、結婚もしないと言っています。子供に対する色々な方面からの援助が充実し、明るい未来を見られることを望みます。	女性	40～49 歳
女性は正社員で大きな収入があれば別だが、子供が大きくなればなるほど経済的に負担が大きくなる。・そこに両親の介護や家の相続など、とても無理。本来、働き盛りで最も収入が持てるはずの40代があまりに冷遇されている。	女性	40～49 歳
経済的に給料が安すぎて、旦那様の所得だけで暮らせる人は本当に少ないと思います。何か良い方法があると良いですね。未来に期待しております。	女性	40～49 歳
1-2. 医療費		



妊娠中に不定期受診の医療費の負担が大きい。産休中・育休中の経緯財的に負担が多く(給与がないため)経済的サポートがもう少し充実して欲しい。出産にかかる費用が多く、一時金もあるが経済面の負担が大きい。	女性	18～29 歳
この秋、浜田市では未就学児の医療費が無料になりましたが、学校に上がれば上がるほどケガも大きくなってくでしょうし、病院にかかることも増えると思います。県全体でもう少し考えて貰いたいです。	男性	30～39 歳
医療費が6歳までは安心だが小学校に行く病院にお金がかかるので不安	男性	30～39 歳
医療費が小学生からかかる出雲市は子育てがしにくい。松江市・大田市は子育てに関して行政が協力的。	女性	30～39 歳
大田市は未就学児は医療費がかからない為有り難い。このまま続くようをお願い致します。	女性	30～39 歳
仕事と子育てを両立する為には、子供も自分も病気にならないようにしたい。無料で出来る予防接種を増やすことは重要だと思います。宜しくお願い致します。	女性	30～39 歳
高校生も医療費が無償になれば助かります。	女性	30～39 歳
同じ島根県なのに松江と出雲で医療費補助を受けられる期間(年齢)が違うのは、少子化に繋がると思います。	女性	30～39 歳
現在、江津市では乳幼児の医療費は未就学まで無料だが、その後の負担が大きいと感じる。	女性	30～39 歳
おたふく風邪の予防接種無料化又は補助を希望します。妊娠中でも仕事は普通にしているので、妊娠を希望する方や家族だけでなくその他の年代の方も抗体検査が無料で出来るなどの対策をしてもらいたいです。	女性	30～39 歳
子供が重い病気になり介護休暇を三ヶ月もらいましたが全く足りず、休職も可能だと職場から言われましたが、その間の生活費も出所がなかったので退職しました。労働者が病気だと傷病手当が使えますが、子供だと使えない。子供の病気なのに社会は優しくないと感じました。	女性	30～39 歳
浜田市では、乳児に問題があると治療できる機関がないので遠方の病院へ行かなくては行けない。病院の設備状況を確保するのは難しいと思われるが、せめて NICU くらいはあってほしい。出来ないのならば、安心して出産できる為に、他県や遠方で出産、管理入院となったら交通費のお金の補助があれば助かります。	女性	30～39 歳
結婚前までは松江市にいましたが、妊婦健診の助成も少ないと聞きました。出産までの費用はかなりかかりますので県全体で支援して頂くと良いです。	女性	30～39 歳
なぜ市町村によって子供の医療費負担が違うのか？出来るだけ無料化へ	男性	40～49 歳
高校まで子どもの医療費を無料にしてほしい。	男性	40～49 歳
結婚して子供ができて生活が苦しいと、本当は幸せなこともそう思えなくなると感じますが…。行政に求めるとしたら、税金を少なくするか、医療費をなくす(子供がいる家庭)事です。	男性	40～49 歳
出雲市は他の市町村並みに医療費免除年齢を上げて欲しい。	女性	40～49 歳
市によって乳幼児医療費などに差があり、高額医療費を負担したことがある。できれば12歳までは低額で受診できれば良いかと思っています。	女性	40～49 歳
金銭面については小学校6年生までの医療費や、妊婦健診の無料など他県から聞くと島根県は恵まれており、ありがたいです。	女性	40～49 歳
子供の医療費…無料期間を中学生までにしてほしい。学年ではなく満年齢にしないと、1～3月生まれの子は無料期間が短く不平等であると思う。	女性	40～49 歳
医療費が出雲市は乳幼児まで無料、雲南・松江は小学生まで無料なので同じように負担してほしいです。	女性	40～49 歳
島根県(江津市)は医療費が、小学校を卒業したら当たり前の額を払うことになっているので、その期間をせめて中学校卒業までにしてほしい。	女性	40～49 歳
経済的不安も無い制度が望ましい。健診受診も妊娠中にかかる病院(どの科でも)の診察費も無料や割引制度などがあると良い。	女性	40～49 歳
乳児医療も中学校で制度が終わるので高校卒業まで延長するなどして、支援が必要であると思う。そういった事を充実しないとなかなか子供を産み、育てようと思う人がいないのではないのでしょうか。	女性	40～49 歳
国や県、市に求めたいのは経済的なもの。医療費支援。	女性	40～49 歳
1-3. 教育費		
高校や大学へ進学させるにあたって奨学金制度の緩和。助成金を出すなどして誰も不安なく進学できる環境をつくって欲しい。	男性	18～29 歳
子供が少なくなっている時代に、未就学児のみ対象に無償化など納得がいけない。高校など一番お金の負担が大きくなる年齢を対象に補助をお願いしたいです。	男性	30～39 歳
子育てにお金がかかる。特に保育・大学・医療。市によって子供の施策が違う。県で統一して欲しい。	男性	30～39 歳
距離に応じて高校への進学支援をお願いしたい。	女性	40～49 歳

将来の教育費を考えると子育てにお金が掛かりすぎ、なかなか出産に踏み切れない人が多いのでは・・・と思います。政府・行政、社会全体がその意識でその場しのぎの政策ではなく、長い目で見て安心出来るような政策を作り出してもらいたいです。	女性	40～49 歳
島根県は実際にとてもお金の要る小～大学までの子育てに冷たいと思う。子供を無料で保育所に預け、その上に無理難題を言う親も多く、子育て支援の方向性が果たして 良い方向へ向かっているのか、ぜひ検討して頂きたい。	女性	40～49 歳
子供の教育費の負担が大きい。国がもう少し支援してくれる方が良いと思います。	女性	40～49 歳
子育てで、一番経済的に大変になるのが高校から大学。公立・私立では学費も大きく違う。教育費の負担軽減にもっともっと力を入れてほしい。	女性	40～49 歳
昔は大学に行くという人も少なかった時代から誰でも行くという時代が変わったので、大学に行く費用を考えると3人産むことを断念する人も多い。	女性	40～49 歳
大きくなると経済的に大変になるので、高校・大学進学に対しても給付型の奨学金制度を設けてほしい。	女性	40～49 歳
教育費の負担に大きな不安を感じています。我が家の場合、3人の子供が大学まで進学したとすると相当な費用を負担することになることから、より一層の教育費軽減を期待しています。	男性	40～49 歳
子育てに伴う経済的負担が重すぎる(特に学費)高校を卒業するまでの医療費負担の軽減を願う。子ども手当の充実を希望(大学在学中、未成年で扶養であれば対象になるような・・・)	男性	40～49 歳
<b>1-4. 経済支援</b>		
お金の面での支援して欲しいです。	女性	18～29 歳
シングルマザー(シングルファーザー)には、親との同居にかかわらず、もっと経済的な支援をすべきだと思います。	女性	18～29 歳
これから小・中・高校、そして大学までの資金をどう貯めるのか。お金の心配が一番不安です。あと1人子供が欲しいですが、欲を言えば4人5人といっぱい欲しい気持ちはあります。昔の人はどうしていたんですかね・・・?何でもかんでも無料にしてほしいわけではないが、もう少し手元にお金が欲しいです。	女性	18～29 歳
子育てに対して、経済的支援を充実すべき	男性	30～39 歳
税金をしっかり取るわりに保障はうすい。一生懸命真面目に働いても(重労働でも)低賃金である現状。高収入の方からはそれなりに徴収しても、低収入の人のことを考えてほしい。低所得者の少し上の人は、保障や軽減なく苦しい。時短業務や育休産休、まだまだ取らせてもらえない企業は多いです。うたえることもできず・・・。	男性	30～39 歳
子供を産み育てやすいようにお金の支援がもう少しあったら、もっと産み育てたいと思う。お金の面で不安があるので、欲しくても現状で終わってしまう。	女性	30～39 歳
とにかく育児にはお金がかかります。島根県が全国に先駆けて子育ての経済的支援を大々的にやるべきです。人口の少ない島根県だからこそ思い切ってやるべきです。	女性	30～39 歳
地域で子供を育て次の社会を担う世代を育てる事は今のままでは親への負担が多いです。3世代同居で支えながら生活しています。祖父母もまだ働いています。子供3人も育てているのでお金がかかるので保育園に預けてたくさん働きたいです。多子家庭に優遇があると大変助かります。医療費助成の拡大も期待します。	女性	30～39 歳
子育てでは経済的な負担が大きいので、医療を始め学業にかかる経済的な支援の拡充、および拡大を強く要望したいと思います	男性	40～49 歳
少子化対策を進めるなかで、もっと経済的な支援をしてほしい。子供3人以上育てている場合は、無条件に経済的な支援をするなどの対策が必要ではないでしょうか。子供をそれなりに育てるにはお金がかかります。また、お金をかけてでも育てていくものと考えています。	男性	40～49 歳
経済的に子供を生むことをあきらめないよう支援して頂きたいです。	女性	40～49 歳
<b>1-5. 安定した雇用と収入の確保</b>		
島根県で特区指定を受け、雇用の流動化や残業規制の強化を積極的に行っていくべきだと考えています。雇用の流動化は解雇のしやすさばかりが目立ちますが、逆に見れば企業が必要な人材を積極的に採用できるチャンスになると思いますし、残業規制も併せて強化することで、未払い残業代の支払いや副業を行う余暇時間の捻出にも繋がります。	男性	18～29 歳
子育て・結婚どちらもお金がかかる為まず安定した雇用を増やすことが大切なのは・・・?相手がいても、働いていなければ結婚しようとは思えないのでは?正規で復職できなければ子供を産もうとは思えないのでは?すぐ職に就ける資格のある方は別ですが・・・。	女性	30～39 歳
子育てに対しては、手当や助成金の増額ではなく親の雇用環境の改善が第1だと思う。	女性	30～39 歳
雇用と収入の安定があって、子供の教育(特に高等教育)に対する経済的負担が抑えられれば、もっと子供を産む人が増えると思う。将来に対する安心があれば、女性は喜ぶのではないかと思う。	男性	40～49 歳



奨学金が残っていたり、収入が不安定だったりすると、なかなか結婚できないと思うので、安定した収入や今後の見通しが立てられるような社会にしなければダメだと思う。	女性	40～49 歳
私の世代は就職氷河期で安定した職に就けず、恋愛・結婚を考える余裕がなかったと思います。仕事も安定した上で結婚を考えられるようになりました。経済的な自立が出来たら、子育て・結婚につながると思います。	女性	40～49 歳
1-6. 不妊治療費		
子供が欲しいと望んでいても金銭的な面で治療を続ける事が難しい場合があるので、不妊治療の際の検査など全て保険適用になると嬉しいです。	女性	30～39 歳
不妊治療に対する金銭的補助をもう少ししてほしい。	女性	30～39 歳
不妊治療の時、県から助成金を二度ももらいました。とても助かり、続けて欲しいと思いました。	男性	30～39 歳
子供が欲しくてもできない人への島根県独自の手助けをしてほしいです。島根に来れば不妊治療もし易いと思ってもらえるような助成などがあると、もっと人が増えて子供も増えると思います。子供を産みやすい環境整備を！	男性	30～39 歳
今回のアンケートには不妊のことは記載がなく残念に思いました。治療費もその後の保育料援助も収入からの計算や子供の人数で支払われ、とても不公平を感じます。支援されるのであれば、皆が納得できる平等なやり方でされることを希望します。	女性	40～49 歳
不妊治療の実態を把握し、補助金制度等を更に充実してもらいたい。	女性	40～49 歳
1-7. 児童手当		
児童手当の増額を検討して欲しいです。	女性	18～29 歳
本当に子供にお金がかかります。児童手当を2ヶ月に1回にしてほしい。金銭面での補助等があれば、もう1人位子供が欲しい。	女性	30～39 歳
収入が多いという理由で児童手当減額。子供達、自分の為に仕事を頑張っているだけで手当を減額にするのはおかしいと思いました。これでは、働く意欲をそがれるような気持ちになります。全ての子供に同額与えて下さるべきだと思っております。	女性	40～49 歳
子育てにはお金がかかるから・・・と、児童手当を増やしたところで、親が自分の利益のために使う家も少ないので不公平感がつのる(実際、うちは助かっているが)	女性	40～49 歳
子供の医療費だけでなく児童手当の増額など、経済的に不安が無ければ仕事と両立にこだわらず、妊娠・出産・育児にも専念できると思う。	女性	40～49 歳
1-8. こころカード		
こころカードをよく使用しているが夫婦が別々の場所で使用できるように家族カードをつくって欲しい。	女性	18～29 歳
こころカードをもっと沢山の店で使えるようにして、家族が別々のお店に行く時に使用できるよう2枚ほしい。	男性	30～39 歳
こころカードは西部の方では使える店舗が少なく、ほとんど利用できていません。何か別の支援にして頂きたいです。	女性	40～49 歳
1-9. 保育料		
子供の居る生活は充実しているし不満もないが金銭的に厳しい。保育料が高すぎたのもっと早く保育料を無料にしてほしかった。いきなり無料にするよりは、先に軽減することを優先すべきだと思う。	女性	30～39 歳
下の子の保育園の免除は上の子供が18歳を過ぎていた為受けられなかった。年齢で考えるのではなく、産んだ子供の人数で考えていただきたい。	男性	40～49 歳
1-10. その他		
消費増税、物価高の割に収入が低いなど若い人間はとにかく経済的に困っていて、結婚に繋がりにくい。減税するか、収入が増えるよう手配するかなにかしてほしい。	男性	18～29 歳
保育士・介護士・教育関係の方のお給料を上げてあげて欲しいです。命を預かる仕事をされる方を大切にしてほしいです。大人の心に余裕がないと、若い人達も結婚や子育てに対してネガティブになっていくだけだと思います。	女性	18～29 歳
働きたくても保育園に空きがなく働けません！他県のように、自宅保育の家庭に補助が出たり、おむつの補助券など対策を考えて欲しいです。	女性	30～39 歳
中学の給食費、無償にしてほしいです。	女性	30～39 歳
子供たちがここに産まれてきて良かったと思えるような県を目指して欲しい。町内を見ても全体的に収入が低い世帯が多い。県としてみても、他府県に比べて低い様に感じる。収入が少ないのに安心して子供を育てていけない。	女性	30～39 歳
シングルマザーだった頃に保育園＋ファミリーサポートを利用していました。利用料、高すぎます。特に資格の無いお年寄りの方に面倒をみてもらって1時間800円(土日祝)は高すぎると思います。地域で助け合う制度と言っていますが、とても違和感です。	女性	30～39 歳

中小企業や小さい会社に勤める人達の給料や休みは現実的に少なく、行政が思うほど簡単に変わるものではないと思います。	男性	40～49 歳
老後の金銭面の心配がなければ、子育てだけに集中できると思う。	男性	40～49 歳
育児に必要な物品購入の割引や貸し出し(レンタル)の充実。	女性	40～49 歳
不便な土地柄なのに家賃は高く、若くて子供の小さい世帯は大変だと思う。もう少し安くて広い、若い家族向けの住宅を準備して欲しい。	女性	40～49 歳
給付型奨学金の対象を広げて欲しい。	女性	40～49 歳
<b>2. 子育て環境(経済以外)</b>		
<b>2-1. 環境整備</b>		
東部にある施設・設備が充実しているが西部には何のメリットもない。西部も充実して欲しい。	男性	18～29 歳
市役所等役所の平日開設	男性	18～29 歳
相談しやすい環境	男性	18～29 歳
役所等で用事をしているとき、子供を見ていてくれる人がいるとありがたいです。	女性	18～29 歳
思いやり駐車場の申請案内がなく、受診時に大変な思いをしましたので、医療機関や母子手帳交付の際に案内して欲しかった。	女性	18～29 歳
全体的に授乳スペースやオムツ替えスペースがある施設が少ないです	女性	18～29 歳
トイレなどで、女性のトイレの方にだけ、オムツを交換したりするスペースがあるが、もちろん父子家庭もあるのだから男性のトイレにも付けるべき。もしくは男女関係なく入れる所に作るべき。	女性	18～29 歳
子供が産まれたら、今まで目が行かなかったところに目が行くように…。例えば、大きい施設にはオムツを替えるところはあるけど、少し小さいところにはないとか。無料で遊べるスペースはあるのかとか。もう少しあれば良いのになと思います。オムツスペースや公園など、子供を持つ親への雑誌があればいいのと思います。	女性	18～29 歳
新しい地での人間関係や地域など、住みやすい環境がもっと充実して欲しい。新しい人達が住めて、コミュニケーションのとりやすさがこれから大事だと思う。	女性	18～29 歳
江津市では公園など縮小化され、遊ばせるところが少ない。	女性	30～39 歳
子育て支援センターのような小学生も遊べる場所がほしいです。	女性	30～39 歳
妊婦さん、子育て中の方が働きやすい環境、ストレス軽減できる施設や場所の提供、子供達が安心して過ごせる環境を望みます。	女性	30～39 歳
川本町在住です。子育てに関して経済的支援して頂いており感謝しています。子育て支援に関する場所も充実していますが、気軽に立ち寄れる公園があればいいなと思う時もあります。自然に人が集まり人脈ができて、子育ての悩みなど話ができるといいなと思います。	女性	30～39 歳
土曜日、学校を休みにするなら、雨でも集えるような居場所を作って欲しい。	女性	40～49 歳
レジャー施設がないので、そういった場所を増やしてほしい。特に西部地区は本当に行く場所がなさ過ぎます。	女性	40～49 歳
子育て中には家族の理解・協力・ママ友の存在が不可欠。現在子育て中の方、特に核家族の方や友達の少ない方など、同じ子育ての悩みを分かち合える存在の有無は、子育ての精神的負担に大きく関係してくると思います。行政の方々がその辺りの支援を周産期の頃より継続的にアプローチして下さると良いと思います。宜しくお願い致します。	女性	40～49 歳
経済的な支援はあるがソフト面にも目を向けてもらいたい。	女性	40～49 歳
子育てを相談出来る環境や、強制的にでも子育てに介入するような取り組みを行政ではしてほしい。	女性	40～49 歳
<b>2-2. 保育</b>		
保育園を無料にしないで良いので、待機児童問題をどうにかした方が良くと思います。	女性	18～29 歳
保育所の受け入れ、待機児童の減少	女性	18～29 歳
オムツ交換台は色々な場所にあって良いが授乳室が少ないので、もっと気軽に使用できる授乳室が欲しい。	女性	18～29 歳
安心して生活・子育てが出来る社会作りに期待しています。	男性	30～39 歳
病気がちな子供がいると、必ずフリーで子供をみる人が必要になってくる。私のような転妻は頼りがなく、病児保育があればもっと頑張れるのと思います。	女性	30～39 歳
私の家は自営業で従業員は1人なので子供が熱を出すと、主人と従業員に負担を掛けます。従業員を増やしたくても厳しいです。働く父母が、休みを取りやすい環境を整えるのが一番ですが、中小企業はそれも難しいのが現実です。病児保育の充実も並行してしてもらえたらと思います。	女性	30～39 歳
邑南町は子育てに関する制度が整っており良いですが、田舎のため病院も少ないし、幼稚園がないので、保育園に通うしかなく、そうすると母親も働かなくてはなりません。完全に制度を整えるのは難しいですが、せめて子供が受診しやすい皮膚科や耳鼻科が週一回でもあるととっても嬉しいのと思います。ま	女性	30～39 歳

雨の日でも遊べる場所を作る	女性	30～39 歳
公園だけでなく、室内で遊ぶ場所も欲しいです。	女性	30～39 歳
送り迎えが必要な場所にしか安全な遊び場がない。	女性	30～39 歳
自宅や、職場近くの保育園には入れないと、送り迎えの負担が大きく、仕事を続けられなくなる原因になると思います。	女性	30～39 歳
以前に比べて、保育所に子供を預けにくくなった。園の方針がそうなっているが県として柔軟に対応して欲しい。誰もが住みやすい街づくりをお願い致します。	女性	30～39 歳
一時保育も空きがなく、何日も利用すると経済的に厳しいです。保育園の充実、ぜひお願いします。	女性	30～39 歳
Iターンなので、子供が病気等になった時にみてる人がいない。夫婦とも仕事が忙しい時期は融通をつけるのが難しい。病児・病後時保育などの充実が進むと喜びます。	男性	40～49 歳
子育てにはお金が必要なため、出産後も安心して働けるように、保育園の充実が必要。安心して家族・子供が暮らせるように	男性	40～49 歳
保育園入所が年度途中だと、希望保育園にはいりづらい。保育士さんの数が確保できたり、待遇を優遇するなど対策を考えて頂きたいです。	女性	40～49 歳
保育環境について、公立保育園においても土曜日の給食提供や保育の推進をしてほしい。	女性	40～49 歳
ボール遊びできる公園が欲しい。	女性	40～49 歳
2-3. 教育		
若者への特区指定の教育を徹底していくことです。仕組みの存在を知らずに苦しむ人を多く見かけます。労基などの基礎知識は全ての人が最低限知っておくべきです	男性	18～29 歳
公立幼稚園でも給食が出れば、働きやすくなると思う。	女性	18～29 歳
学校でのいじめ問題について、各学校への調査を定期的を実施して欲しい。すでに実施しているのなら、結果を広報などで共有してほしい。	男性	30～39 歳
学校の合併・再編は地域の高齢者や独身者の意見ではなく子供中心で考え、一番利害をこうむる子供の親などの意見を重視すべき。	女性	30～39 歳
学校で子供がいじめられても、教師が対応しない等のニュースをよく聞きます。子供を産んだとしても大きくなるにつれて様々な不安が出てきます。赤ちゃんの頃のサポートだけでなく、ずっと安心して子育てしていける環境が整うことを願います。	女性	30～39 歳
団塊の世代の方々が率先して孫を見る余裕、更に教育を行政は行っていくべき。	女性	30～39 歳
子供の学業も、塾や学校が都会に負けないレベルで学べる場所であって欲しい。	女性	30～39 歳
学校給食に甘いデザートやパンが出るのは良くないと思います。せっかく米の美味しい県なので、自治体ではなく県で丸ごと米飯給食(牛乳なし)にされるといいのにといつも思います。せめてお菓子のデザートはやめていただきたいです。これから小学校に入学させるのが少し不安です。	女性	30～39 歳
子育ての充実。特に山間地域は子どもが少ないため、保育所から中学校までを同じ校舎にして教育を大切にしたり、0歳の土曜保育も充実してほしい。	女性	30～39 歳
学校の勉強だけでなくボランティア等の学習や、子供たちに人間として必要な事を教える所が必要。	男性	40～49 歳
男女平等といっても、優秀な女性が多く男性が劣等感を持つことが多い。やはり小さい時からの教育が大切でしょう。男と女は平等で結婚することは良いことだと言うこと。	男性	40～49 歳
学校以外のフリースクールや不登校児が通える施設への援助(時間の延長、学費の援助、心理士の配置など)	女性	40～49 歳
転勤で松山市から出雲にきました。公園や子供の遊び場があり子供を育てるにはのびのびとできる所がすぐに気に入りました。	女性	40～49 歳
息子は今中1ですが、良い先生もいますが学校の先生の質が悪いという話をよく耳にします。子どもや周りからなんでも筒抜けなのに、先生それでいいん！？と思います。	女性	40～49 歳
中・高校生への性教育(若年・高齢での妊娠のリスクや出産適齢期についてなども含む)を行って欲しい。	女性	40～49 歳
2-4. 児童クラブ		
小学校に上がると、長期休みや親より早く帰宅する場合留守番をさせるのに不安がある。低学年の間は保育園並みに充実した放課後クラブのような制度は不可欠で、利用しやすいと有難い。	女性	30～39 歳
松江市は田舎過ぎず都会過ぎず子育てにはとてもいい場所ですが、希望の保育園になかなか入れなかったり、児童クラブの不足と厳しい面もあります。	女性	30～39 歳
小学4年生から児童クラブに入れなくなる事にとっても不安を感じます。学級閉鎖になった時も、児童クラブが閉鎖され子供の行き場がなくなり非常に困ります。核家族で、両親が仕事をしていると、子供の居場所についての不安を多々感じる事があります。児童クラブの時間充実や、4年生からの子育て支援の充実を願っています。	女性	40～49 歳



小2の息子は児童クラブへ行っていますが、お友達とのトラブルで職場に「迎えに来て下さい」と電話が掛かってきます。夏休みなど、朝9時すぎにかかってきたこともありました。児童クラブは、働く私たちの味方であって欲しい。	女性	40～49 歳
保育園時代の支援は充実しているが、就学と共に児童クラブでの保育がお粗末。地域や学生を巻き込み、実のある時間を過ごせる保育となるようコーディネートできる人材を育成・発掘してほしい。	女性	40～49 歳
学童保育の充実。	女性	40～49 歳
2-5. 医療		
健診などは平日は困難。	男性	18～29 歳
エコー検査での、胎児の様子を詳しく見る事が出来る3D・4Dのエコーをどこの産婦人科にも設置してほしい。	女性	18～29 歳
小児科医の質の向上。	女性	30～39 歳
2-6. 親への教育		
子育てしている親のモラル低下が気になります。モラルの低い保護者のもとで育つ子が親になったときが心配でバランスが大事なのではと感じています。より改善され、より明るい未来に繋がりますよう宜しくお願い致します。	男性	30～39 歳
今年はニュースで子供の虐待があり、涙が出た。結婚とか、子育てとか以前に親になる教育が必要なのではないか。	男性	40～49 歳
保護者の親としての自覚不足や認識不足を何とかした方がいい。自分たちの子育てを助けてもらって当たり前、やってもらって当たり前、お金をもらって当たり前だという性根は違うのではと思う。	男性	40～49 歳
2-7. その他		
行政が男性へもっと子育てに関わり女性への理解を深めるよう指導すべき。	女性	30～39 歳
子供を育てることに楽しいこともありますがい通りにならないことも多くあります。夫婦が協力しなければいけないと思いますが、男は仕事をしていれば良いという考えが今でも根強くあると思います。そういう考えを改められるような社会になれば良いと思います。	女性	30～39 歳
同居や二世帯住宅など親が近くに住んでいる場合には、時代と共に親の役割も変化していることなど周知すべき。	女性	30～39 歳
子供とその親に優しい街づくり。	女性	30～39 歳
ネットやSNSの影響で嫌な情報を見て余計に育児に不安と心細さが大きくなった時期もありました。	女性	30～39 歳
孫を連れて参加できる参加できる「じじばばサークル」ができ、トレンドになると良いと思います。	女性	30～39 歳
昔に比べたら、今の子育ては恩恵を受けていると思います。貰えて当たり前、もっと子育てしやすい社会と要求ばかりでなく頂いた児童手当はちゃんと子供のために使ったり貯金して、親もしっかりと働いて、子供世代に借金をつくらぬよう苦労してお金を負担していく意識を国民全体が持って欲しいと考えます。	男性	40～49 歳
幼稚園児の減少もひどいですが、0才児から保育園に預けられる子が多い気がします。就学前の大事な時期を一緒にいてあげて欲しいです。保育園だった子供はトラブルが多く、不安定な子が多い気がします。もう二度と戻らない時間、ただそばに居るだけでもいいので同じ時間を共有して欲しい。	女性	40～49 歳
子供が持病や障害を持っていて、生活的にはギリギリですが、面倒を見てくれる人がいないため、働くことが出来ない。だけど周りの人は「専業主婦だから楽だね」「いいよね」などと言われ、どうにか出来ないかと思う。	女性	40～49 歳
教師の再教育(精神的・身体的な子供の病気への対応方法、障がいへの理解、イジメへの対応)	女性	40～49 歳
里親制度の促進、柔軟な対応をしてほしい。	女性	40～49 歳
一人親になり、子供のいじめ・不登校と、児童相談所へ相談に行きましたが、取り合ってくれず、何のための機関なのか?・・・怒りがこみあげてきて、学校へ問いかけたことがありました。どれだけの賃金が支払われているのか分かりませんが、必要な場所への支援をお願いしたいと思います。県なら県、各市なら市へと予算を組んで欲しいです。	女性	40～49 歳
来年10月に3歳～5歳の保育料教育無償化が決定したが、現場の7割は反対との声。保育士不足の現場では余裕をもって見られず、心のこもった質の良い保育は難しい。保育施設の充実より家庭育児の推進が大切。そこに補助金やオムツの現物支給があれば良いのでは。子育てに大切なのは効率ではなく、個人差を認め、それぞれの発達に応じて適切な支援・援助をしていくことです。	女性	40～49 歳
子育てに関して、女性の負担はまだ大きいと感じています。男女が同じよ男性が同等に子育てして当たり前の社会に、私たちの子供が結婚する頃にはなっていてほしいと願います。	女性	50 歳以上
3. 仕事との両立		
3-1. 休暇、勤務時間		

沢山の支援があっても実際に利用できないのが現状です。子供が熱を出しても仕事は休めず、体調の悪い子供に申し訳ない気持ちでした。今は仕事と子育ての両立は難しいと思います。	女性	30～39 歳
残業・休出のない生活の確立、自由な時間が増えれば出会いや子育てをしやすくなる。	女性	30～39 歳
就業規則に育休に関してのことが書いてあるのに、上司の理解がなく退職しました。出産後、正規職員として働きましたが、子供の病気や保育園早退、お迎えの時間が17時と早く大変でした。もう少しフルタイム、土日出勤がある人の声ももっと反映させて欲しいです。	女性	30～39 歳
子育てと仕事を両立させる母親として、病気の時にゆっくり休みをとれない現状が一番辛いと感じ日々生活しています。	女性	30～39 歳
有給が取れる体制を行政から指導の徹底をしてもらいたい。	男性	40～49 歳
ローンで家を建てても忙しく家で過ごす時間が少ない。仕事を休んで子育てする時間がたくさんあれば良い。	男性	40～49 歳
ひとり親にとって子育ては大きな負担です。子供の行事で有休を取りたくても、会社からはいい顔をされず困っています。民間の中小企業は子供のために休みを取るとしても、会社で罰を与えるようなパワハラ発言や処遇を受けます。この現実を知って欲しいです。	男性	40～49 歳
夫の仕事(公務員)が多すぎて(平日の帰宅22時～24時、休日はほとんどなし)家族と過ごす時間がない。過労死ラインなどとくに超えている。子供が幼いときはワンオペ育児で鬱になりかけた。夫の育児に対する意識と職場の環境整備は不可欠。職場は1人の人間にできる仕事量を、はるかに超えたことを押しつけてはならないと思う。	女性	40～49 歳
親の休日確保。休日に子供を預け遊びに出かけても後ろ指を指されないような島根県(安来市)にしてほしい。それが少子化対策・過疎化対策につながると思います。	女性	40～49 歳
<b>3-2. 企業への働きかけ、企業意識の改革</b>		
子育てしながら働く女性には色々な免除があり協力したい気持ちはありますが、業務格差があるにも関わらず、基本給が同じです。子育てに協力している会社には補助金を出して、穴埋めをしている男性にその分の対価が支払われるようになれば嬉しいなと思っています。	男性	30～39 歳
雇用主や会社が子育てへの関心や理解度が低すぎる為に若者が入社してこない。行政はしっかりと現実目に向けてもらい、仕事と子育てが両立できるような取り組み指導を願いたい。	男性	30～39 歳
子育てと仕事の両立はすごい難しいので、企業も子育て世代に優しい職場環境の改善を働きかけていただきたいです。	女性	30～39 歳
働きながら子育ては本当に大変ですが、経済的な不安もありやめられません。両立できるよう、時間勤務の延長は行政を通して企業にも働きかけしていただきたいです	女性	30～39 歳
職場の環境が良くなるよう、雇い主の意識を変えるような働きかけをしてほしい。組合も無い小さな会社なので、従業員の立場弱いです。	女性	30～39 歳
子供が熱を出しても早退できなかったり、休みずらかったり、転職も子供をもつ簡単にはいかず、正社員で雇ってくれるところは少ない。子をもつ母親で有能な人は沢山居るのに勿体ない。企業にも雇用を促すことをしてほしい。	女性	30～39 歳
共働き世帯が増えているにも関わらず、未だ家事・育児・介護などは女性の役割といった雰囲気があり男性(夫)の長時間労働を見直し早く家に帰れるようにして、夫婦で共に家事・育児をできる社会にしてほしい。	女性	30～39 歳
<b>3-3. 女性の就業について</b>		
祖父母は県外二箇所にも孫がいて病気になって助けに行くときの交通費が大きな負担になっている。保育所はすぐに迎えに来てくれと母親に電話をするので、現実問題として手伝いに行かざるを得ない。	男性	18～29 歳
人手不足もあるが、出産後復職してからの女性は精神的に大変そうで、そのような女性を沢山見ていると結婚・出産・子育てはものすごくハードルが高い。心穏やかに過ごせる島根県になることを心から願っています。	女性	18～29 歳
現在、育休中ですが復帰しても子供の事で休むことが多くなると思います。周りに負担がかかることはよくわかりますがその様な状況でも、変な空気にならないような社会になって欲しいです。子育てと仕事が両立できる社会を望みます。	女性	30～39 歳
出産時に勤めていたところでは、産後ボーナスが減ったり、子供の病気で休むことにも気を遣ったりしていましたが、今の場所では職場にキッズルームもあり、安心して子育てしながら働くことができています。これから先、女性が子育てをしながら安心して働いていける様に少しでも変わっていくことを望みます。	女性	30～39 歳
出産後仕事に復帰しましたが、夜勤は無理なので収入はガタ落ち、生活はカツカツです。夜勤もリーダーもやらないので大事な仕事は任せられず、女の人ばかり不利益になるのは変だと思っています。	女性	30～39 歳
子育てと言いながら女性の退社時間や仕事の内容が激減し、その分男性に仕事のしわ寄せがあり男性も困っているのが現状です。	男性	40～49 歳

女性の賃金が男性より低いことが多いが、働いて家事もしているのに給料も安いでは「1人の方が良い」と思うこともある。子どもとの時間をもっと作りたいが、働かないと、学校へ行かせられるかなど不安があり、結局働くしかない。子供たちのために働いているのに、子供たちと過ごす時間が無いことに、日々葛藤している。	女性	40～49歳
<b>3-4. その他</b>		
仕事をしながら子育てがしやすい環境にしてほしいです。	女性	18～29歳
男女共に働きながら子育てできるようになってほしい。	男性	30～39歳
治療は突然の検査や排卵チェック、注射のために休職などがあり、職場から「いつまで休む気だ」「辞めるか出るかしら」と言われ、ストレスになり辞めました。もっと不妊治療でも休みやすい環境が欲しかったと思いました。	男性	30～39歳
子育て支援はいつも手厚くして頂いていると思います。ありがとうございます。仕事にやり甲斐を感じている反面、子供との時間を有意義に使いたいと感じている毎日。子育て中、病児保育を利用しながら、後ろ髪引かれる思いで病児保育を利用させて頂いております。	女性	30～39歳
仕事と子育ての両立というのは、誰がどうやって評価するのか。人それぞれに思いや満足度は違うもので、行政で一律に取り組めるものではない。	男性	40～49歳
産前休業や育児休業がありますが、自営業のもとで働いていると、ゆっくり休んでいられないのが実情。大変なとき、どこへ相談すれば良いのかわからない。働きながらの子育てでは本当に大変です。保育園などに頼らず、0～2歳までは各家庭で子育てできる世の中になると良いと思います。	女性	40～49歳
仕事と子育ての両立はとても難しい問題。正社員であるが故に、参観日・運動会にもなかなか行けず離職となった人も多数います。こういった情勢が少しでも改善出来るよう、職場は勿論ですが取り組んで欲しいと考えます。	女性	40～49歳
子育てに苦労している家庭が多く経済的より、労働時間と子育ての時間のバランスが難しそう。社会の忙しさが子供の減少に直結していると強く感じるのもっと柔軟な働き方が必要。本気で取り組んでいただきたいです。	女性	40～49歳
休みの日に家事をしたいが子供の相手もしないといけないから、フルタイムで働くことと子育てとの両立は難しい。	女性	40～49歳
子育て中でも正規社員を目指して就職活動をしている人もいるので、インターネット求人でも少し情報を得られるようにしてほしい。またはハローワークに意向がなくても質問などに対応してもらえると助かります。	女性	40～49歳
<b>4. 未婚化・晩婚化</b>		
<b>4-1. 出会いの場の設置</b>		
出会いの場(イベント)などを設定して欲しい	男性	18～29歳
出会いパーティーのお金ももう少し安いと嬉しい。若い男性なら3,000円、女性なら1,500円程度で開かれると皆が参加しやすい。	女性	18～29歳
結婚支援について会社の方も理解し、出会う機会を提供し支援する仕組みが欲しい。同じ職場なのに結婚していない方は多いです。	女性	18～29歳
昔のお見合いのような強制力のある出会いがないと結婚できない人はいるとおもいます	男性	30～39歳
職場や地域で結婚していない人を支援していくための休日取得やイベントやクラブ活動	男性	40～49歳
もっと出会いの場を広めるとか企画(年齢に関係ない)をするとか考えて貰えると少しは問題も減るのではないかと思います。	男性	40～49歳
間接的後方支援の場を多くつくるきっかけや時間を用意して貰えると良いと思います。	男性	40～49歳
結婚支援は県内の自分が住んでいる場所以外の、出会いの場の情報がネットで見られるようになると良いと思う。	女性	40～49歳
50才以上の方でも出会いの場を設けて老後と一緒に過ごせるカップルが出来たらいいと思う。子供は養子ももらって育ててあげたいと思う。老後1人は淋しいし、何か1つ楽しみがあれば楽しいと思う。	女性	40～49歳
少子化対策として若者の未婚化に歯止めをかける事は重要ですが、年齢に制限無く出会いの場を提供していただくと良いなとも思います。	女性	40～49歳
「出会いの場」を仮に設けたとしても、足が向かなければ意味がない。	女性	40～49歳
結婚支援について若者が遊べる場所、出掛ける所をつくってほしい。若い人の新しい発想とパッションが島根には必要。	女性	40～49歳
<b>4-2. 結婚支援</b>		
LGBTなど、セクシャルマイノリティに対する子育て・結婚・出会いの支援も行ってほしい。また、そういった事情を持つ人々への理解を深めて欲しい。	女性	18～29歳
結婚支援については、大々的にされればされるほど引く。もっと日常的なところでさりげなくやらないと誰も参加したらない。収入も安定させてやらないと、20代での結婚は親世代の負担が大きすぎる。	女性	30～39歳



年齢を重ねることで、出会う機会も減少し、かつ偏見の目も見えるようになりました。結婚や子育てに対する意識は年齢に伴い高くなると思いますが、そこに行くまでが困難になってきているので、あきらめの意識が高くなります。これらを含むようなサポート体制が出来ることを期待します。	男性	30～39 歳
パツイチ子持ちだと再婚が難しいので援助をすべき。早い年代での再婚があれば出生率も上がると思う。	女性	40～49 歳
物忘れの障がいがあっても結婚してもいいと思う人を探して欲しい	男性	40～49 歳
今思うのは、もっと早く結婚していれば良かったという後悔です。40歳を越えて今、親の面倒や町内との繋がりがりなど、色々なしがらみがあり、結婚以前にお付き合いにも足踏みする感じです。私と同じような事で未婚で居る方も居ると思うので、そのような方にも結婚に前向きになるような支援をお願いします。	男性	40～49 歳
4-3. 個人の自由		
結婚に強制力を感じない。3組のうち1組が離婚しているなんて話を聞いていけば「結婚＝幸せ」ではないこともわかっている。一番良いのは「本人が幸福であること」だから好きにすればいいと思う。	女性	18～29 歳
私は自由な独身生活を今後行って行くことが好ましい状態です。ある程度の給与をもらい、のんきな人生を歩んでいきたいと日頃から考えています。第一に自由な人生を「謳歌」したいものだと、日頃より考えております。一生独身で良いと思っております(今、私は49歳です)	男性	40～49 歳
人の考えは千差万別。未婚も晩婚も、子1人も、子2～3人も、子たくさんも自由。どれが一番良いなんて決まっていな、決める必要も無い。一度きりの人生だから自由に選ぶべきだと思う。	女性	40～49 歳
結婚については最終的に自分の意志の強さなので、本当に結婚したいと思えば自分から動くものではないだろうかと思います。	女性	40～49 歳
現在は私の母とパートナーと3人暮らしてとても幸せです。地方だとどうしても結婚・出産という流れが当たり前になっているが、かえてこれが若い人のプレッシャーになっている気もします。独身でもいきいきとしていけばいい人生なのではと考えます。	女性	40～49 歳
4-4. 結婚のよさの PR		
結婚に対して魅力を感じさせる冊子の作成、意識啓発など結婚に関する支援の方が重要だと思う。	女性	30～39 歳
未婚化・晩婚化が進んだ1つの要因とし、結婚して自分の個性や自由を失いたくないと思う若者が増えたことだと思う。結婚してパートナーと暮らす楽しさや子供を持ち苦楽を感じる事の素晴らしさをわかってもらえるような取り組みが必要だと思います。	男性	40～49 歳
結婚についての良い面についてPRすることも大切に感じます。TVなどでは、マイナスのイメージの話題や事件など、結婚は良いものではないと感じる内容があります。プラスの内容も多く取り上げて欲しい。	男性	40～49 歳
結婚の良さや、子供を持つ喜びをもっと訴えるPRなどあれば良いと思います。「子供は親の背中を見て育つ」と言うように、結婚をしている我々がまず幸せにならないと子供たちには伝わらないのかなとも思います。	女性	40～49 歳
4-5. 未婚化・晩婚化の原因		
若い世代の減少と高齢化が進む中で、行政に期待することは高齢化社会の問題です。親の面倒を見る事も晩婚化の原因の1つ。介護施設の充実と、介護の為に退職等、経済的負担の軽減も重油だと思います。	男性	18～29 歳
島根は「家」ということへの執着が他県に比べても高いのではないのでしょうか。家を背負おう、嫁ぐなどという考えが、未婚化・晩婚化の1つの要因かもと考えます。	男性	40～49 歳
親の介護も結婚していない原因の1つです。独居老人の対策や経済的な事など行政には考えてほしいです。	女性	40～49 歳
4-6. その他		
結婚相談所の生活保護だからダメにしたり、結婚相談所のお金が高くて携帯からサイトにつけるようなことをされるのはとても困ります。システムを変えたり、あまりにも大勢の人の前で探すのは病気を抱えている人はきついです。ごちんまりとした形を作って下さい。	女性	18～29 歳
金銭的に余裕がない私達が未婚者に結婚の良さを伝えても、金銭的な不安を与えてしまいます。	男性	30～39 歳
結婚から出産・育児をしても、離婚をしたときの女性の負担(1人でも生きていける余裕がない)をもっと考えてもらいたい。離婚率も高いということも考えて制度を整え直して頂きたいです。	女性	30～39 歳
結婚したくないわけでも子供が欲しくないわけでもないのに、社会では子育て支援のことばかり言われて、それが出来ない身としては辛い。	女性	30～39 歳
結婚支援というものも立てておられてすばらしいなと思いました。	女性	30～39 歳
島根という土地はとても特殊です。同世代で(30代なかば)独身の異性は「それなりの人」しかいません。失礼ですが、以前、大阪に住んでいたときは30～40代でもしっかり仕事をして「普通」の異性の独身者が沢山おられました。ですが、島根ではそうはいきません。若くて「普通」の人は結婚しておられます。30代で結婚していないと「変人」扱いです。Iターン・Uターン者はスタートラインにすら立てません。	女性	30～39 歳
田舎の昔ながらの風習・習慣を減らして(気持ち良く近所づきあいが出来る程度に残して)若い人が嫁に来やすい環境が出来たら良いと思う。	女性	30～39 歳

結婚支援について行政税金の支援を行うのであれば、他の行政サービスを充実させるべきだと思う。	男性	40～49 歳
未婚・晩婚は国難であると考えますが、国民に危機感がないと国政も変わらないと感じています。	男性	40～49 歳
県又は国として、結婚・出産・子育てをするとこれだけの魅力があります！と、明確にアピールする必要がある間違ってても不安要素は出してはいけない。(不安要素とは、税金負担や保育難民、地域サポート不足等)	男性	40～49 歳
晩婚化が進み少子高齢化。結婚は幸せになれる場ではないと考える人もいます。男性も女性も理想が有り、出会いの場を求めていますが決して甘くはない。結婚をして子供を授かり、本当に幸せになれる人はほとんどいないと思います。	女性	40～49 歳
周囲の結婚しない女性達をみていると、それをとりまく男性の人間力・魅力が足りないと感じてしまいます。優秀でやり手の男性が、大学卒業後に戻ってこられる仕組みをつくと良いと思います。	女性	40～49 歳
結婚する人を増やして「縁結びの出雲」を県外へアピールする。	女性	40～49 歳
私の周りの独身男女の多くは、結婚恋愛願望を持っている。願望のある人には支援をすべきだと思う。	女性	40～49 歳
田舎では、未だに長男・長女が跡取りという考え方が残っているため、その考え方の犠牲となっている子供が沢山いることを、独身の子供を持つ親は考えて欲しいと思う。	女性	40～49 歳
<b>5. 少子化</b>		
<b>5-1. I・Uターン</b>		
行政として、企業への働きかけ(長期労働の是正や、低賃金の解消)にご尽力頂きたいです。島根県は労働環境の整った企業がすごく少ないと言われます。県外の友人と仕事の話をすると、県外の方が魅力的思うことがあります。少子化対策を考えるなら、まず若い人を島根県にIターン・Uターンさせられる県になって頂きたいです。多忙だとは思いますが宜しくお願い致します。	男性	18～29 歳
学業などで一度島根を離れてしまう人達に向けて、Uターン・Iターンしたくなるような、子育て・結婚支援の制度の拡充を期待しています。これからも頑張ってください。	男性	18～29 歳
少子化が進む理由は間違いなく、若者の県外就職である。もう島根県は終わっている。どこに結婚相手がいるのだろうか・・・。	男性	18～29 歳
進学等で、若者が多く都会へ出てしまう出雲市は結婚するにも相手を見つけにくい！！進学・就職で地元に残る若者が増えるような未来にしたいです。	女性	30～39 歳
<b>5-2. 個人の自由</b>		
子育て・結婚支援は、少子化対策のために行うべきではあるが個人的な事項であるため、行政が深入りしたり特定の価値観を押しつけたりするようなものであってはならないと思う。	男性	18～29 歳
結婚し子育てをするかどうかは個人の自己決定の自由。「結婚しない」「子をもうけない」自由についても尊重し、過度に「結婚しましょう」「子をもうけましょう」というメッセージ性のある広告を行政として行うべきではない。	男性	30～39 歳
子育て・出産は当人がする・しないを選択出来るものでしなけれならぬものではない。工作上・経済的、様々な事を考え、この先20年以上続く出費のことを考えられないなら、むしろすべきではない。	男性	40～49 歳
<b>5-3. 不妊治療</b>		
不妊治療などと向き合っている方、子供を望んでいても叶わずやめるという選択をされた方にも優しい島根県になるといいなと思います。	女性	18～29 歳
島根県では西部で不妊治療をしているところはないので、子供を連れて10日間出雲まで通いましたがしんどかったです。体外受精できる病院が出来たら良いのになと思いました。	男性	30～39 歳
私は40～41歳の間に不妊治療をしたが、治療をしつつ年齢による限界を感じていました。妊娠適齢期の現実についてももっと早く知るべきだったと後悔しています。支援する年齢を若く設定していれば気づいたと思います。正しい知識を持って、人生のプランを考えないと。チャンスある若者に明るく生きやすい社会になって欲しいです。	女性	40～49 歳
<b>5-4. 社会変化</b>		
早く結婚することにメリットがなさすぎ、男の収入だけで十分なものがなければ晩婚化は避けられない。女性が働かなくてもよい世の中にならなければ、少子化は避けられない。	男性	40～49 歳
核家族が増えより快適な生活を好む若者が増加し、生活費が昔よりかかる為共働きが多くなった。子育てに手をかける事が難しく少子化になったと思う。また昔より農家が減少したことで働き手が不要となり、子供達に費やすお金も自分たちの趣味や洋服、車などに使うようになったと思います。	男性	40～49 歳
<b>5-5. 企業誘致</b>		
県内には、子供を大学まで行かせてあげられる収入の仕事(職種)が限られており、大学卒業後に島根に帰ってくることを迷っている。安定した収入が得られる企業を誘致して下さい。特に県西部にお願いしたいです。仕事さえあれば、島根に帰り就職し、結婚したいと思っております。子供を育てるのには島根県はよい場所だと思っています。	男性	18～29 歳



益田市は働くところも少ないし、賃金も低すぎる。子育てするには自然も多い良いと思うが、子育て世代の人口が少ないのも働くところがないのが原因だと思う。	女性	30～39 歳
5-6. その他		
子育てや結婚支援について話す機会が欲しい	男性	18～29 歳
こころカードを知らないなど、制度について認知度が低いと感じることがあるので、もっと広報をする必要があるのではないのでしょうか。	男性	18～29 歳
中・高生からの教育も将来子供を産むか産まないかの選択肢に大きく影響すると思うので、生政法のやり方はもうやめにしたいいいんではないのでしょうか？	女性	18～29 歳
子供を産むことで、どのような経済的手当・休業などがあるのかを分かりやすく発信していただきたいです。	女性	18～29 歳
1人ひとり考え方が違うので、行政が関わっていくのは難しいと思いますが、頑張って下さい。	女性	18～29 歳
保育士が足りないのは、保育士の給料が低いからという一択。子育て・結婚支援を考えるためにはまず土台をしっかりと築かなくてはならない。	女性	18～29 歳
問4-4にも書きましたが、結婚すれば子供が生まれ人口が増えるなら、今の状況(超少子高齢化)はおきていない。子供をもちたいという人をおおいに歓迎し、ひとり親に寛容になったり、彼らを十分にサポートできる行政支援や制度があれば自然に増えていくと思います。	女性	18～29 歳
島根を活性化するためにも、柔軟な考えやアイデアを持つ人物が島根を引っ張っていくべきだと思います。東部だけではなく西部ももっと盛り上げて、島根へ住んでくれる人を増やせば出会いも増えて、結婚する人も増えるのではないのでしょうか。	男性	30～39 歳
いつもありがとうございます。ますます島根県が住みやすい所になることを期待しています。	男性	30～39 歳
世界平和統一家庭連合では、純潔、純愛、結婚をすすめています。一般的な婚活は、出会い、交際までの手伝いが多いが、家庭連合は結婚はもちろん、その後もずっとサポートしてくれ、結婚に対して希望しかありません。そういう所と行政が連結することで少子化に歯止めがかかると思います。	女性	30～39 歳
色々な家族の形がありますが、結婚が全てではないし結婚したら子どもができるとは限らないので、養子制度など周りがフォローできる環境など整備してほしい。	女性	30～39 歳
結婚しても充実した生活が確保できる地域がこれから必要。すべては少子化対策。	男性	40～49 歳
いい方向になるようお願いします。	男性	40～49 歳
少子化と言われてはいるが、はたして日本という国の国土面積や企業数に対して現在の人口が適正かは疑問である。	男性	40～49 歳
子供を増やすよりも、次世代に負担を掛けないよう、介護・財産管理など綺麗な幕引きが出来る仕組みを考えた方が良くはないのでしょうか。	男性	40～49 歳
犯罪が無いような町作りをしてほしい。外国人で言葉が通じなかったり、見た目が悪かったりすると特にそう感じる。	男性	40～49 歳
主人が育休を取得した事によって、育児や家事に対する意識が変わり協力的になり、一緒に育てていくといったパートナーシップが2人の中で強くなった。他県で男性の育児休暇が義務づけられた市があると聞いた。そのような思い切った政策が社会を変えるかもしれないと思う。そのためにも職場も変わらなければいけない。	女性	40～49 歳
今の社会情勢で情報が溢れすぎていて子育てしていく環境がとても難しい。色々な制度を利用しやすくして、父母が少しでも心に余裕を持って、子供と関わる時間を少しでも楽しんで子育てしていける環境が整ってほしいと願っています。	女性	50 歳以上
6. その他		
6-1. 行政に対する意見		
行政の関わり・働きは全て平日のみで土日祝と働く者には非常に辛い日常。土日保育の利用しやすさ、拡大があると、子育てと仕事の両立がスムーズに行えるのではないかと考えています。	男性	18～29 歳
島根県がどのような支援を行っているか知らないのですが、受動的にでも情報が入ってくると良いと思う。	女性	18～29 歳
空き家を市が買取り、リフォームして独立したい夫婦のために貸し出すと良いと思う。	男性	30～39 歳
景気の低迷と未婚は切っても切り離せません。松江の求人倍率が増えたとNEWSでは報道していますが、どれも非正規雇用で将来を見通せません。鳥取は人口(出生率)が上がっているようですし、様々な取り組みをされていて参考にされてはいかがでしょうか？人口減は大きな問題です。	男性	30～39 歳
出雲市で待機児童が居るのは行政がもっと改善を行わないからで、住みやすい出雲市にと市長は言うなら、もっと動いて欲しい。	女性	30～39 歳
今の教育は生ぬるい？昔ながらの良いことと悪いことは周りの大人が叱るような日常があれば、子育てや結婚などより良い環境になると思う。	女性	30～39 歳

行政の仕組みがよくわからず、何度かたらい回しにあった。その際の行政の対応も冷たく、とても子育て・福祉に関わっているとは思えない対応であった。政策を考える前に、見直す点は違う点にあると強く感じる。	男性	40～49 歳
結婚・子育てはあくまでも個人・家庭での問題であり、行政はその中に踏み込むべきではない。行政は子育て社会を守ることが役割であるから、個人単位ではどうにもできない。医療・教育・児童福祉に全力を注いで頂きたい。	男性	40～49 歳
予算を付け、行政職員・外部等の連携など、関係者が本気で取り組み結果を出すことを目標とし、目標に届かなければペナルティをかすなど、今までと対応の結果は今までと同じとなるため、行政には改善を期待したい。	男性	40～49 歳
財源がない割には市役所内はエアコンを使いすぎているところがあるので、少しの努力を重ねる事で何かしらの成果を上げることも出来ると思います。	女性	40～49 歳
行政の関わりは最小限にして、個々が意欲的に試行錯誤しながら日々過ごせたら良いと思います。不公平のない世の中になるための施策を行政には期待しますが、複雑になりすぎないようにして頂きたい。	女性	40～49 歳
同性でも結婚が出来るように世界は動いていると思います。少子化に懸念・ストップしたいと考えるなら、結婚しなくとも子供が産めて、夫婦別姓などもっと前向きにお考え下さい。	女性	40～49 歳
私が勤めている会社は、表向きには子育て支援を主張し行政からも認定されていますが、実際には女性社員は不当な扱いを受けています。行政の方には、その会社がどのような実態なのかをしっかりと見極めてほしいと思います。	女性	40～49 歳
行政が具体的な対策をとる必要はないように思います。お金を稼ぐことが仕事として捉えられているとこも子育てや結婚しにくい要因になっているのでは…。対応してくれる人をつくる行政になって下さい。結婚や子育ての対策より、消費税を廃止するなど、もっと庶民が楽になるようにして下さい。	女性	40～49 歳
基本的な部分は充実しているけど、それ以上の子育て・教育の高いレベルを求める人が増えているから、まだまだ子育ての面で行政は不十分と言われるのかな？と思う。	女性	40～49 歳
6-2. アンケートについて		
もっと障がいをもった人や病気を抱えた人にもわかりやすく、フリガナや意味を伝えて欲しい。	女性	18～29 歳
問3-3の質問項目に違和感を感じます。男性が家事や子育てをすることに特別感があることが変だと思いました。家事や子育ては「手伝う」ものではないと思います。この1つの設問だけでこのアンケート調査が胡散臭く、古い体質で時代遅れを感じました。もっともっと追求をお願いします。	男性	30～39 歳
調査したところで何も変わらないのが現実。印刷代、郵便代を育児用の費用にあててほしい！！	男性	30～39 歳
アンケートに答えたら、何かしらの形で「今」を変えていって欲しい。	女性	30～39 歳
師走の忙しい時期にアンケートの締切は辞めてもらいたい。送付から締切までが短い。	女性	30～39 歳
子供が出来ない方やLGBTの方に対して、全く配慮がされていませんが、今の時代に行政がこんな対応で大丈夫ですか？	女性	30～39 歳
支援されないと出来ない結婚ならしなくても良いのではないのでしょうか？支援支援と押しつけがましい。3000人にアンケートを送るお金があるのなら、他でお金を使うべきでは？	女性	30～39 歳
無作為で選ばれたとのことですが、独身者にこのアンケートが届く時点で、何か嫌味のようなものを感じました。独身者の意見が必要であるのなら、そういう名目でアンケートを送付すべきだと思います。	女性	30～39 歳
質問はしっかり考えられ、シンプルで良いアンケートだと思うが、年末で業務多忙の時期に回答は難しい。1県民回答者の立場に立ち、余裕のある発送にしてほしい。回答率のアップにもつながると思う。税金を有意義に使って欲しい。	女性	30～39 歳
このアンケートそのものがくだらない！！電子化・データ化されたこの世の中が変わらなければ世の中が変わらない。田舎はダサイくらいが良い！都会との格差があった方が良い！今こそアナログへ変化して欲しい。カッコイイ田舎者でありたい。	男性	40～49 歳
このようなアンケートを取るだけではなく、是非活かして頂きたい。	男性	40～49 歳
このアンケートの質問事項に、多少ハラスメント的な印象を受けました。(理想的な子供の人数と、実際予定している子供の人数の質問・未婚の方への独身である理由の質問など)このアンケート結果が、実際どのように活かされるのでしょうか？	女性	40～49 歳
この調査をしてどうなるのかと言いたい。これがどうだったかと言って、良い方へ動く気がしない。この調査をしたからには、いい方向へ向くように努力して欲しい。	女性	40～49 歳
アンケートのフィードバックを求めます。	女性	40～49 歳
6-3. その他		
ありがとうございました。	男性	18～29 歳
子供と仲良く楽しく過ごせたら良いと思います。	男性	18～29 歳
これから頑張ります。	男性	18～29 歳
シ地味県	男性	18～29 歳

結婚支援という言葉は少し違和感がありました。結婚した方が良い、支援がいるということは事実だとは思いますが適齢期に未婚の私には受取り方の問題ですがずしっときます。	女性	18～29 歳
保育士です。年一回監査がありますが、書類等のことしか見られませんが人的環境にもっと入り込んで欲しいです。産休育休を取るにあたってひどい仕打ちがありました。こんな環境では子育てもしにくいです。	女性	18～29 歳
色々な生活スタイルがあるので、それはそれで良いと思う。子育てや結婚は大変だけれど、いいものでもあるということを語れる人が増えるといいと思う。マスコミでの発信は大きいのでマイナスイメージばかりが出ないようにしてほしい。	男性	30～39 歳
まだよくわからないけど、出会いが私にもあるなら	男性	30～39 歳
金銭面や休暇面で公務員と民間業者の家庭で生活のレベルがかなり違うと感じることが多い。民間業者はボーナスも休暇も取りづらい。	女性	30～39 歳
このアンケートで少しでも良い島根県になることを願っています。よろしく願います。	女性	30～39 歳
小児科に対して不満あり。	女性	30～39 歳
子育ては理屈だけでは出来ないし実際お金もかかりますが、行政にだけお金を出してもらって、負担減らしてもらえばかりでなく、子供は親を見て育つので出来ることをやっていただけ。小さい時はお母さんが子育てに安心して向き合える時間が長い方がいいような気がします。お母さんが男の人と同じようにどうしても働く、と言うところを見直して欲しいです。	女性	30～39 歳
未婚に関しては・・・わかりません。お疲れ様です。寒くなって参りました。皆様お身体ご自愛下さいませ。	女性	30～39 歳
結婚は無理にするものではないと思います。出会いの場は飲みに行かない限りないと思う。	女性	30～39 歳
子供がいる方が優遇され、全ての負担を未婚者・子供のいない人がまかっている。当たり前のように自分の都合だけを優先されると、こちらもどんどん制度を備えてという気持ちがなくなる。	女性	30～39 歳
地方に若者を拡散させる支援が必要	男性	40～49 歳
世の中が便利になり過ぎて成人しても精神的に幼稚な人が増えているように思う。根本的な価値観を考えていかなければ難しいのでは。	女性	40～49 歳
サービス業は土日が休みでない所が多いので家族みんなが揃うのは難しい。子供たちに対して「結婚は良いものだよ」とか「子育ては楽しいよ」何て言えない状況です。	女性	40～49 歳
子供はいませんが、お互い趣味もあり夫婦仲も良いので充実した結婚生活が送れている。結婚＝子供とは思わないし子供がいるから幸せとも思わない。むしろ子供がいる方が夫婦げんかや離婚の原因になったり、自分の趣味や生活を犠牲にしなければならないので、無理に欲しいとは思わない。	女性	40～49 歳
島根県を住みやすく、魅力的な県にした方がよいのではないのでしょうか？	女性	40～49 歳
近所の温かみも消えつつあり、私の子供時代は先生や近所に叱られても温かかった。日本の問題かもしれませんね。	女性	40～49 歳
保育に関わる仕事をされる人の待遇を改善してあげてください。働き方、環境の整備を、未来を担う子供に携わる方々の環境から整えることが、将来の日本を創ることでないのでしょうか。	女性	40～49 歳